

奈良県桜井市

纏向遺跡発掘調査報告書 3

—— 第35次・63次・72次調査 ——



2015. 3. 31

桜井市纏向学研究センター編
桜井市教育委員会

桜井市埋蔵文化財
発掘調査報告書 第44集

奈良県桜井市

纏向遺跡発掘調査報告書 3

————— 第35次・63次・72次調査 —————

2015. 3. 31

桜井市纏向学研究センター編
桜井市教育委員会



110



120



122



118



114

序

私達の桜井市は大和盆地東南部に位置し、山地より流れ出る粟原川、寺川、初瀬川、巻向川等の清流を集めた大和川が市域を横断し、大和川両岸には南には桜井茶臼山古墳やメスリ山古墳、安倍寺跡、上之宮遺跡、山田寺跡、大福遺跡、北には箸墓古墳、纏向遺跡、芝遺跡といった全国的にも著名で貴重な文化遺産が数多く遺されています。

桜井市ではこれらの遺跡の保護・啓発事業の一つとして市内遺跡の調査保存に力をいれておりますが、本書に報告いたしますのは昭和57年度、平成3年度、平成5年度に桜井市教育委員会が国、県よりの補助を受けて実施した纏向遺跡の調査報告であります。

現地調査にあたりましてご指導・助言を賜った多くの関係機関の方々、地主及び地元協力者の方々、厳寒、酷暑のなか発掘・整理作業に従事していただいた作業員、整理員、学生諸君の方々に深く御礼申し上げます。

この多くの方々に支えられて成った本書が文化財の普及・啓発の一助となり、地元の歴史に光をあて、また研究者の方々の資する所となれば当委員会としても望外の喜びであります。

平成27年3月31日

桜井市教育委員会

教育長 石田 泰敏

例 言

1. 本書は昭和57年度、平成3年度、平成5年度に桜井市教育委員会が国、県よりの補助を受けて実施した纏向遺跡の遺跡範囲確認調査報告である。
2. 本書の作成にあたっては平成26年度の国・県による補助事業の採択を受けて、出土資料・記録の活用を目的に桜井市纏向学研究センターにおいて調査資料の再整理と報告書の作成を行ったものである。
3. 調査期間と体制は以下のとおりである。なお、所属はいずれも調査当時のものである。

【昭和57年度 纏向遺跡第35次調査】

調 査 機 関：桜井市教育委員会 教育長 西村司、教育次長 嶋岡一郎、社会教育課長 石本喜代次、
文化財係長 萩原儀征、主事 新屋敷啓順、臨時職員 村社仁史

調 査 担 当：桜井市教育委員会社会教育課文化財係 係長 萩原儀征

【平成3年度 纏向遺跡第63次調査】

調 査 機 関：桜井市教育委員会 教育長 南正直、教育次長 平野和男、参事 北島和典、
社会教育課長 高松隆司、主幹 萩原儀征、文化財係 主任 清水眞一

調 査 担 当：桜井市教育委員会社会教育課 主幹 萩原儀征

調査作業員：植田光男、植西靖治、植西キヨ、平岡高雄、嶋岡道子、辻カズ子

【平成5年度 纏向遺跡第72次調査】

調 査 機 関：桜井市教育委員会 教育長 南正直、事務局長 澤井和彦、社会教育課長 高松隆司、
主幹 萩原儀征、文化財係 主任 清水眞一

調 査 担 当：桜井市教育委員会社会教育課 主幹 萩原儀征

調査補助員：松宮昌樹・立田理（奈良大学）

整理作業員：嶋岡由美、佐々木聖子、藤井妙子、青木久子

調査作業員：植田光男、植西靖治、植西キヨ、平岡高雄、嶋岡道子、辻カズ子

4. 整理作業及び報告書の作成：調査資料の整理と報告書の作成は以下の体制で行い、桜井市教育委員会文化財課調査研究係技師・桜井市纏向学研究センター研究員 森暢郎がこれを担当した。

【平成26年度】

整 理 機 関：桜井市教育委員会 教育長 石田泰敏、事務局長 田井中正行、次長 北光秀、
文化財課課長 渡辺芳久、主幹（文化財係長事務取扱） 井前貴雄、
主任 松宮昌樹、福辻淳、丹羽恵二、臨時職員 三沢朋未、飯塚健太、生島雅美、
中田いずみ

調査研究係長 橋本輝彦、技師 森暢郎、臨時職員 木場佳子

編 集 機 関：桜井市纏向学研究センター 所長 寺澤薫、主任研究員 橋本輝彦、

研究員 松宮昌樹、福辻淳、丹羽恵二、森暢郎、嘱託研究員 木場佳子、
三沢朋未、飯塚健太

調査補助員：広瀬侑紀、栗原卓志（奈良大学）

整理作業員：大西里佳、岡田理絵子、北平太恵子、西田千秋、山口充子

5. 本書所収の写真撮影は、遺構写真は調査担当者が行っている。遺物写真については基本的に森が行ったが、纏向遺跡第72次調査の墨書土器の撮影については独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所 企画調整部写真室にお願いした。記して感謝します。
6. 墨書土器の釈読については、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所 都城発掘調査部史料研究室（平城地区）にご教示を賜った。記して感謝します。
7. 本書で用いたレベル高はいずれも海拔高を示す。
8. 本書の執筆は森がおこなった。第3章木材の樹種同定については奈良教育大学 金原正明氏にお願いし玉稿を頂戴した。記して感謝します。
9. 本書における遺物実測図は断面表現を土師質－白、須恵器・瓦－黒、石・鉄器－斜線とした。
10. 出土遺物は基本的に1/3の大きさ、墨書土器は1/2の大きさに掲載している。
11. 本報告所載の遺物をはじめ調査記録一切は調査回数毎に桜井市教育委員会において保管している。活用されたい。
12. 報告書作成にあたっては、以下の方々にご教示を賜った。記して感謝します。
(敬称略)
三好美穂（奈良市教育委員会）、柳沢菜々（日本学術振興会特別研究員）
13. 報告書作成にあたっては、桜井市纏向学研究センターの研究・類例調査の成果を活用した。

目 次

巻頭図版

序

例言

目次

第1章 位置と環境

第1節 桜井市の位置と環境(森) 1

第2節 纏向遺跡の位置と環境(森) 3

第2章 発掘調査の成果

第1節 纏向遺跡第35次調査(森) 5

第2節 纏向遺跡第63次調査(森) 6

第3節 纏向遺跡第72次調査(森) 9

第3章 分析 纏向遺跡第72次井戸杵材の樹種同定(金原) 28

報告書抄録

挿 図 目 次

図1	桜井市の位置.....	1
図2	纏向遺跡と周辺の遺跡 (S=1/20,000)	2
図3	纏向遺跡の古地理図 (安井2006)	3
図4	纏向遺跡における調査区の位置 (S=1/10,000)	4
図5	調査区の位置 (S=1/1,000).....	5
図6	調査区の位置 (S=1/4,000).....	6
図7	調査区平面図 (S=1/200)・断面図 (S=1/100)	8
図8	調査区の位置 (S=1/1,000).....	9
図9	調査区平面・断面図 (S=1/80)	11
図10	井戸1平面・断面図 (S=1/40)	13
図11	出土遺物1	14
図12	出土遺物2	15
図13	出土遺物3	16
図14	出土遺物4	17
図15	出土遺物5	18
図16	出土遺物6	19
図17	出土遺物7	20
図18	出土遺物8	21

表 目 次

表1	東壁断面図土層注記.....	7
----	----------------	---

表 2	北壁断面図土層注記	12
表 3	井戸 1 断面図土層注記	13
表 4	遺物観察表 1	24
表 5	遺物観察表 2	25
表 6	遺物観察表 3	26
表 7	遺物観察表 4	27

図 版 目 次

巻頭図版 纏向遺跡第72次調査出土墨書土器

図版 1	纏向遺跡第35次調査土器 掘削状況 1 (北東から) 掘削状況 2 (東から) 土層堆積状況 (南から)	図版 6	纏向遺跡第72次調査 (4) 出土遺物 (1)
図版 2	纏向遺跡第63次調査 調査地の位置 (北東から) 礫群検出状況 (東から) 調査区全景 (南から) 落ち込み 2 断ち割り (南から) 落ち込み 1 (北から)	図版 7	纏向遺跡第72次調査 (5) 出土遺物 (2)
図版 3	纏向遺跡第72次調査 (1) 井戸検出状況 (西から) 礫群検出状況 (南から)	図版 8	纏向遺跡第72次調査 (6) 出土遺物 (3)
図版 4	纏向遺跡第72次調査 (2) 井戸断ち割り状況 (南から) 完掘状況 (西から)	図版 9	纏向遺跡第72次調査 (7) 出土遺物 (4)
図版 5	纏向遺跡第72次調査 (3) 刀子検出状況 柱穴検出状況 (南から) 埋め戻し後 (東から)	図版10	纏向遺跡第72次調査 (8) 出土遺物 (5)
		図版11	纏向遺跡第72次調査 (9) 出土遺物 (6)
		図版12	纏向遺跡第72次調査 (10) 出土遺物 (7)
		図版13	纏向遺跡第72次調査 (11) 出土遺物 (8)
		図版14	纏向遺跡第72次調査 (12) 出土遺物 (9)
		図版15	纏向遺跡第72次調査 (13) 出土遺物 (10)

写 真 目 次

写真 1	井戸 1 杵材顕微鏡写真	28
------	--------------	----

第1章 位置と環境

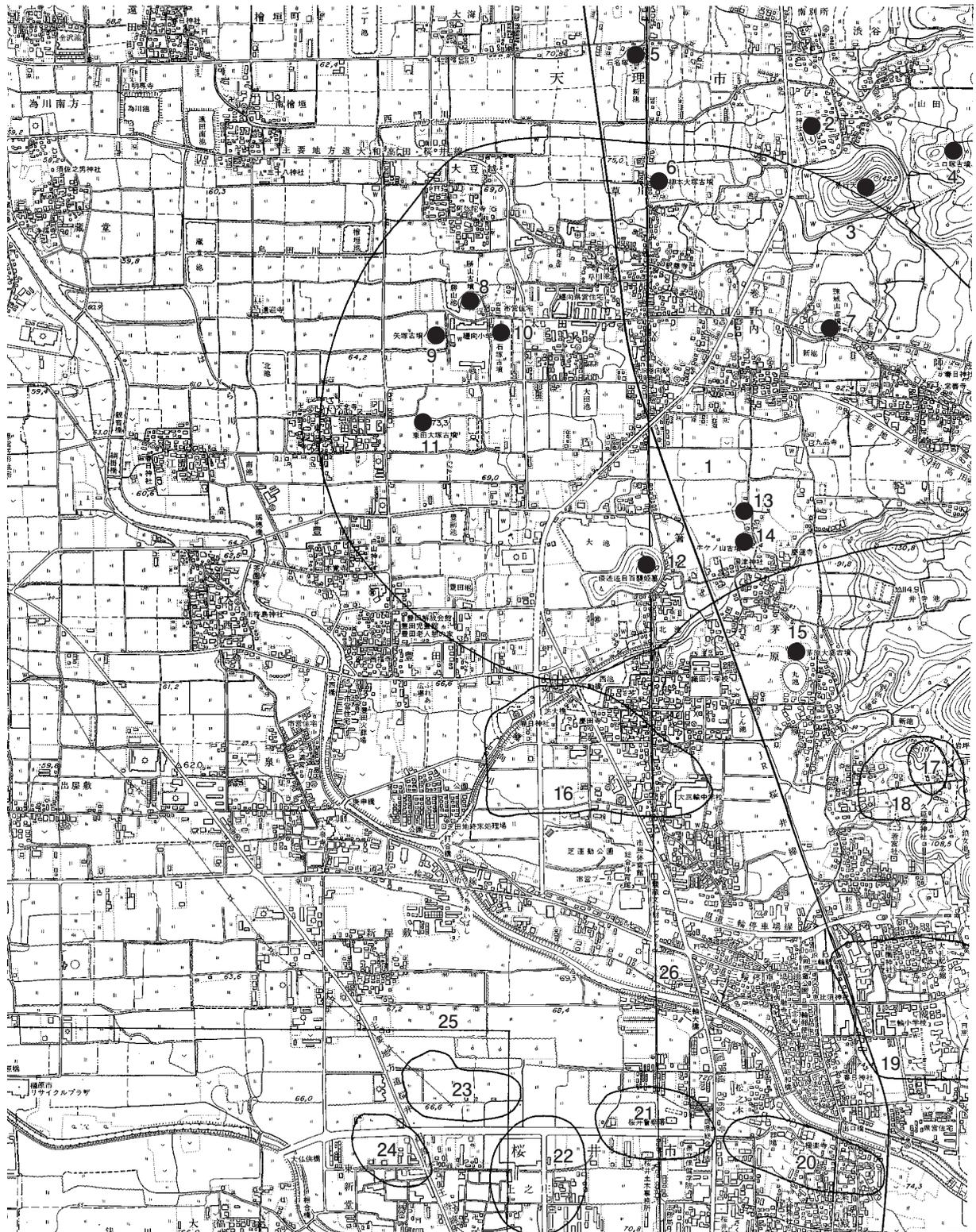
第1節 桜井市の位置と環境

桜井市は、奈良盆地の東南部に位置する人口約6万人、面積98.92km²の都市である。鉄道や国道によって大阪など大都市と結ばれて近郊都市としての様相をみせる一方で、文化財が豊富にある観光都市としての側面もあわせ持つ。市域の北西部は奈良盆地の一部を構成しているが、北東部や南部は竜門山塊や大和高原に連なる山々があり、それらの山地より流れ出る粟原川、寺川、初瀬川、巻向川等の清流を集めた大和川が市域を横断している。市域の北は天理市・奈良市、東は宇陀市、西は橿原市、田原本町、南は明日香村、吉野町と接しており、奈良盆地と山間部の宇陀地域、吉野地域との結節点である。また、現在においても東海地方と近畿地方を結ぶ近鉄大阪線や、北和と中和を結ぶJR桜井線が走る交通の要衝であるが、近代以前においては上ツ道や横大路、山田道、伊勢へと通じる初瀬街道が合流する交通の結節点として機能していた。



図1 桜井市の位置

本市には旧石器時代の遺跡は少なく、芝遺跡¹などで石器が見つかった程度である。縄文時代に入ると遺跡は増加する。特に後期から晩期の資料は多く、後期は東新堂遺跡や上之庄遺跡、吉備遺跡などで遺構が検出されており、晩期には纏向遺跡や栗殿遺跡などで遺物が出土している。弥生時代では銅鐸や木甲、鞆羽口が出土し、大規模な環濠を多重に巡らした集落である大福遺跡²や、絵画土器が出土した芝遺跡が平野部に立地する。市中南部の丘陵地では安倍山遺跡³で弥生時代後期の環濠がめぐり、高地性集落の存在を示している。古墳時代前期には本書で詳述する纏向遺跡で集落域が展開し、箸墓古墳、纏向石塚古墳をはじめ前方後円墳が築造されるほか、市南部には桜井茶白山古墳・メスリ山古墳の2基の大型前方後円墳が所在する。集落では脇本遺跡⁴で竪穴住居や銅鐸片を検出している。後期から中期には大規模な古墳こそないものの、泊瀬朝倉宮の候補にも挙げられる脇本遺跡や、市中南部の丘陵上に風呂坊古墳群⁵や谷遺跡といった渡来人の痕跡を残す遺跡が展開する。終末期にかけては赤坂天王山1号墳や文殊院西古墳、段ノ塚古墳、舞谷1号墳などが存在し、古代寺院では吉備池廃寺、山田寺跡、安倍寺跡などが認められる。これらはいずれも大王家や有力氏族と密接に関連する遺跡で、桜井市域が古代国家の形成・成長に重要な役割を果たした証左といえる。橿原市との市境周辺は大藤原京域に含まれ、条坊の痕跡が残る。藤原京廃絶後は青木廃寺、粟原寺跡、慈恩寺跡、長谷寺といった寺院が多く存在するものの、比較的集落関連の遺構は少ない。本書で報告する纏向遺跡第72次調査はそういった希少な事例となる。



- | | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-------------|-------------|
| 1 纏向遺跡 | 7 珠城山古墳群 | 13 北口塚古墳 | 19 三輪遺跡 | 25 大藤原京関連遺跡 |
| 2 上の山古墳 | 8 勝山古墳 | 14 ホケノ山古墳 | 20 三輪松之本東遺跡 | 26 上ツ道 |
| 3 渋谷向山古墳 | 9 矢塚古墳 | 15 茅原大墓古墳 | 21 三輪松之本遺跡 | |
| 4 シウロウ塚古墳 | 10 纏向石塚古墳 | 16 芝遺跡 | 22 上之庄遺跡 | |
| 5 石名塚古墳 | 11 東田大塚古墳 | 17 箕倉山城跡 | 23 上之庄遺跡 | |
| 6 柳本大塚古墳 | 12 箸墓古墳 | 18 箕倉山遺跡 | 24 東新堂遺跡 | |

図2 纏向遺跡と周辺の遺跡 (S=1/20,000)

第2節 纏向遺跡の位置と環境

纏向遺跡は桜井市域北西部の平野部に位置する古墳時代初頭から前期の大規模な遺跡である。遺跡の範囲には諸説あるが、おおよそ東西2km、南北1.5kmをはかる。奈良盆地の東側縁辺部にあたるため、遺跡東側に広がる大和高原より流れ出る巻向川や烏田川が形成する東高西低の扇状地上に遺跡が展開する。扇状地は河谷の開析により段丘化しており、纏向遺跡は下位段丘堆積物や洪水堆積物上に成立していることが明らかとなっている。洪水堆積物には縄文時代後期の遺物が含まれる。標高は西側では60m前後、東側の山間部に近いところでは120m前後をはかる。

細かく地形を検討すると、扇状地には旧流路やその後裔である現用の水路が走る谷部分と、旧流路に削り残されるように尾根状に伸びる微高地部分が認められる。多くの遺構は微高地上に展開する。微高地は北から草川微高地、巻野内微高地、太田北微高地、太田微高地、箸中微高地と名付けられている⁶。また旧河道についても纏向川河道（辻河道）、纏向川河道2、纏向川河道3、纏向川河道4の名称が付けられている⁷。

庄内式期以前の遺構は太田北微高地に多く、纏向遺跡第4次調査で検出した大溝⁸や纏向石塚古墳⁹、近年庄内式期としては日本列島最大級の建物を含む建物群を検出した辻地区はこの微高地上に立地する¹⁰。その他の微高地でも、太田微高地の庄内2ないし3式期とみられるメクリ1号墳¹¹や第149次調査で木製仮面を検出した庄内式期古相の土坑¹²、箸中微高地の第76次調査落ち込み¹³や第135次調査で検出した弥生時代後期後半の溝¹⁴などを検出しているものの量的には太田北微高地よりも少ない。

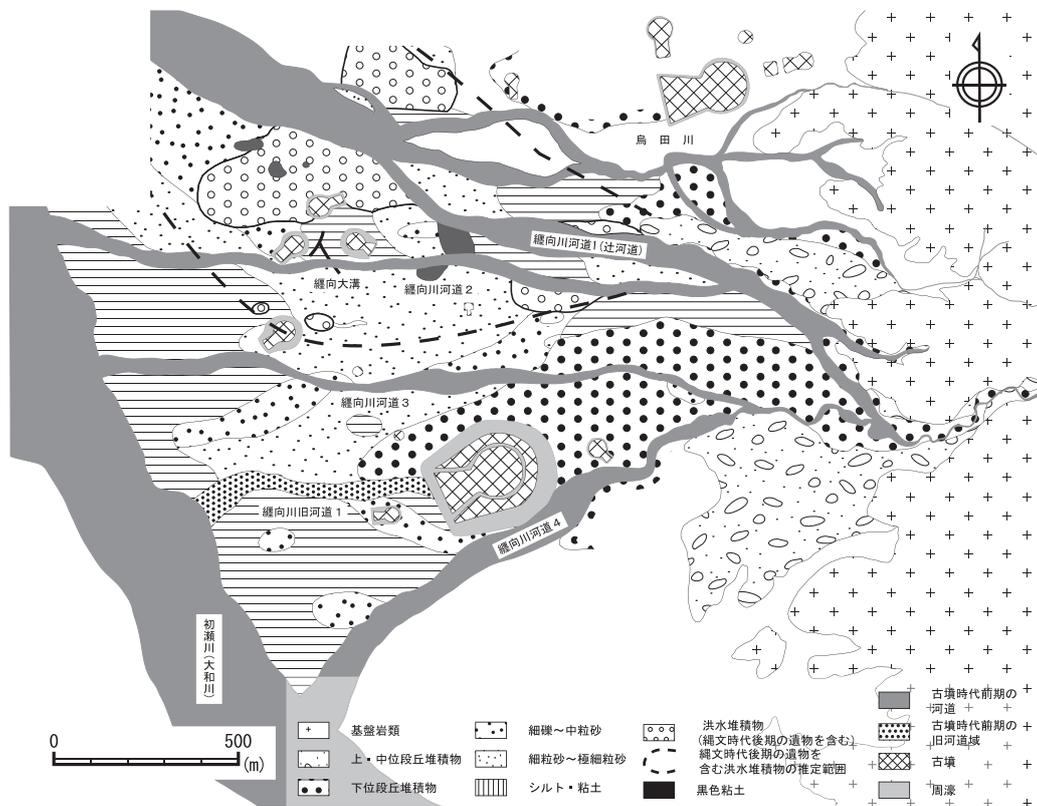


図3 纏向遺跡の古地理図 (安井2006)

第2章 発掘調査の成果

第1節 纏向遺跡第35次調査

はじめに

纏向遺跡第35次調査は大字辻61番2（字トリイノ前）において個人住宅の建設に伴って行った。本調査地は纏向遺跡の調査の嚆矢となった纏向遺跡第5次、7次調査（県営団地）の東側に位置する。調査区は約50㎡を調査した。調査期間は1982年7月29日の1日のみである。

調査の状況

本調査は全く図面が残されておらず、正確な調査位置も不明瞭である。わずかに写真と少量の遺物が残されるのみで、調査期間が極めて短いことや、遺物のラベルには「マキムク辻試掘820729」と記載があること、図面が残されていないことを勘案すると、本調査は調査当時試掘の意味合いで行われたものと推察できる。遺物は古墳時代の須恵器と時期不明の土師器の小片が遺物収納袋1袋（90g）のみである。残された写真を見ると、地表面から1m以上掘削しており、黒褐色の表土下に全面に灰色のシルト混じりの砂層が認められる。本調査区は南側わずか数十m地点で稠密に遺構・遺物が展開しているのに比して質・両共に貧弱であり、土地の性格が異なるものと考えられる。



図5 調査区の位置 (S=1/1,000)

第2節 纏向遺跡第63次調査

はじめに

纏向遺跡第63次調査は大字箸中657番（字サシコ田）において個人住宅の建設にもなっている。本調査地は南北に細長い田である。調査区は東西約2m、南北約50mの北調査区と南側に南北8m、東西8mの南調査区を設定し、約165㎡を調査した。調査期間は1991年11月14日から12月4日までである。

本調査区は纏向遺跡の中でも、箸中微高地と呼ばれる微高地上に位置する。標高は85m前後と比較的高く奈良盆地を一望できる。箸中微高地には著名な箸墓古墳、ホケノ山古墳のほか、古墳時代後期の横穴式石室をもつ慶雲寺裏古墳や時期不明ながら一辺約41mと大規模な方墳である小川塚西古墳、平塚古墳、茶ノ木塚古墳、北口塚古墳といった削平を免れた古墳が散在する。第63次調査はこの内北口塚古墳の北側で行われたため、北口塚古墳にかかわる遺構の検出が期待された。近辺では第76次調査で北口塚古墳の東側を調査しており、弥生時代後期後半から庄内式期初頭にかけての落ちこみや、古墳時代後期の須恵器を含む礫群などを検出している¹⁹。



1. 巻野内石塚古墳
2. 石田古墳
3. サシコマ古墳
4. 小川塚西古墳
5. 小川塚東古墳
6. 池田1号塚
7. 池田2号塚
8. 平塚古墳
9. 小川塚古墳
10. 石塚古墳
11. 茶ノ木塚古墳
12. 北口塚古墳
13. 堂ノ後古墳
14. ホケノ山古墳
15. 宮ノ前古墳
16. 慶雲寺裏田墳
17. 慶雲寺裏古墳

図6 調査区の位置 (S=1/4,000)

調査地の層序と遺構

調査地の基本層序は上から現代耕土の直下に地山（13層淡黄色混土粗砂礫層）となっている。調査区東壁の土層断面図が記録されているが、所々に記載漏れがあり、性格不明の層も存在する。現在遺物は残されていないが、調査日誌には遺物の記述もある。

落ち込み1

調査区の北半には幅約15.3m以上の落ち込み1を検出している。深さは深いところで約0.7mをはかる。埋土の多くは淡灰暗色系で、「埴輪片（6C）」が採集されている。7層のみ淡白黄灰粘土層となる。落ち込み1の南側の肩はほぼ東西方向に検出している。時期は不明であるが8層からみて中世前半以降であろう。ほかに足跡痕跡を検出している。この落ち込みが人為的なものか自然地形であるかも不明である。

落ち込み2

調査区南半でも落ち込み2を検出している。こちらも深さ約0.7mをはかる。埋土からは礫群が検出されている。平面図上で調査区の南端から北へ約18.5m地点の南へ落ちを示すラインは、断面図では12層と13層の間にある破線と一致する。12層は注記がないが礫が含まれており、落ち込み2埋土と考えられる。実際に掘削されているのは平面図上で調査区の南端から7.1m地点までで、これは断面図では12層と10層の分層線に対応する。南調査区では面的に礫群が検出されており、礫群の下層から瓦器が出土している。礫は一抱えあるものと小礫がある。礫群については図化されていないが、写真を見る限りある程度面的に検出している。人為的に配置したものかは判断しがたい。

まとめ

本調査では、2つの落ちこみを検出した。狭小な調査区で落ち込み全容を検出できておらず、性格が不明である。双方等高線に対して直交する方向の落ち込みで、自然地形である可能性を否定出来ない。地割をみると、調査区の北側には旧流路を示す地形が残っており、落ち込み1はこの旧流路に向かって落ちていく地形の一端を捉えている可能性がある。落ち込み2は北口塚古墳に隣接することから古墳に伴う周溝の可能性も考えられるが、一方で現在北口塚古墳と本調査区の間には、東から流れる用水路が通っており、落ち込み2はこの用水路の整備以前の姿を示している可能性もあろう。

表1 東壁断面図土層注記

1	耕土	
2	淡灰褐色土（現代穴）	
3	淡灰褐色粗砂混り土	
4	淡灰褐色土（埋土）	落ち込み1埋土
5	淡灰褐色粘質土	落ち込み1埋土
6	淡灰褐色混土粗砂層	落ち込み1埋土
7	淡白黄灰色粘土層	落ち込み1埋土
8	淡灰色混土粗砂層（瓦器片等検出）	落ち込み1埋土
9	不明（13層と書いた後に消している）	落ち込み2埋土
10	淡灰褐色粗砂礫混り土（2層よりやや明るい）	落ち込み2埋土
11	淡灰色土（瓦器片含む）	落ち込み2埋土
12	不明	落ち込み2埋土
13	淡黄色混土粗砂礫層（地山）	地山

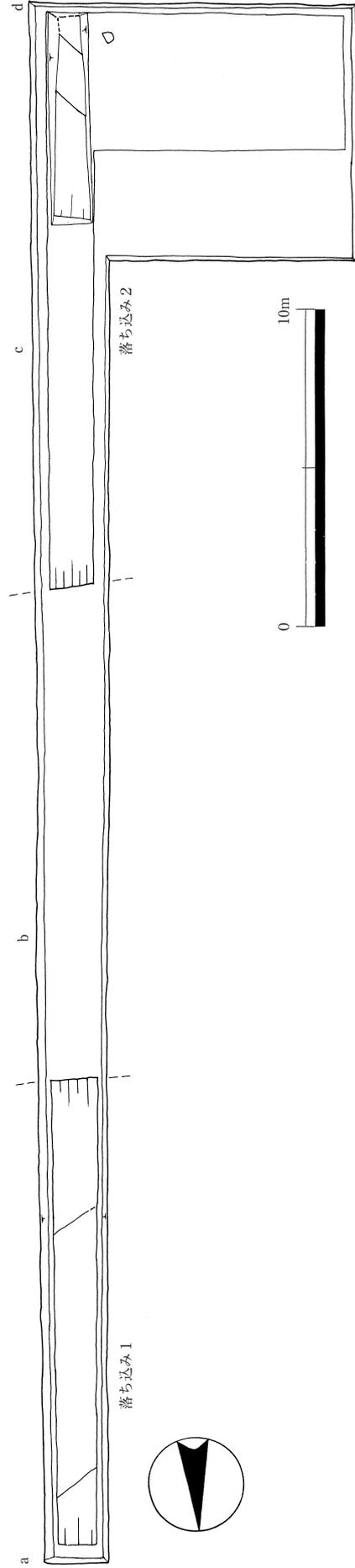
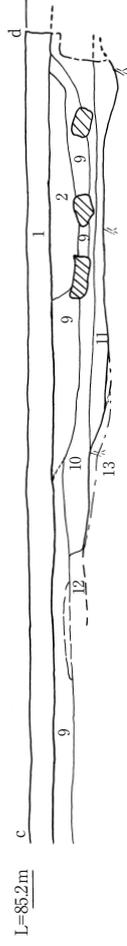
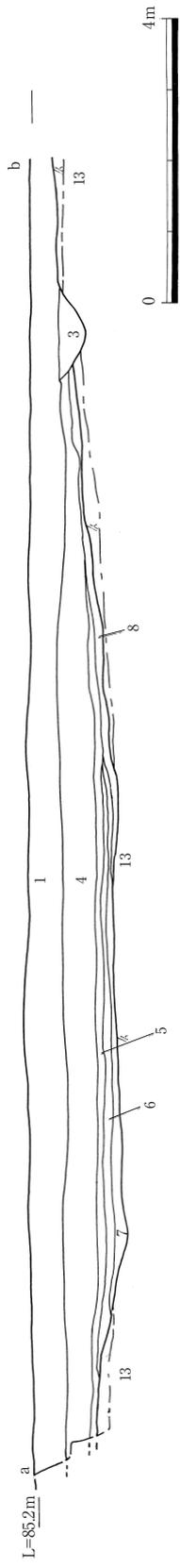


図7 調査区平面図 (S=1/200)・断面図 (S=1/100)

第3節 纏向遺跡第72次調査

はじめに

纏向遺跡第72次調査は大字草川125番（字城念坊）において個人住宅の建設に伴って行った。本調査地は近年桜井市教育委員会が実施している纏向遺跡辻地区の範囲確認調査地の北側に位置する。

本調査区は纏向遺跡の中でも辻河道と呼ばれる旧河道上に位置する。辻河道は第5次調査において両岸が検出され、古墳時代前期から古代に至る流路の変遷が明らかにされている²⁰。辻河道の南側には太田北微高地と呼ばれる微高地が東西に展開しており、現況で調査地とは約2mの比高差が認められる。調査区は東西14.5m、南北6mのトレンチを設定し、約93.75㎡を調査した。調査期間は1993年8月6日から9月10日までである。

調査の方法と層序

調査区の層位は、上から現代の盛土、耕作土層、床土となり、さらに灰褐色土層、粗砂混じり淡灰褐色土層、暗灰色粘質土層、辻河道の埋土である暗灰色腐植混じり粗砂層や淡青灰色砂礫層となり、下層に粗砂礫層が広がる。遺構は少なく、石敷きを伴う井戸を検出している。バックホーで床土まで掘削し以下の土層を人力で掘削した。調査区は4mごとに便宜的に4C～5F区を設定し、遺物を取り上げている。



図8 調査区の位置 (S=1/1,000)

検出した遺構

井戸 1 4C、4Dで検出した井戸で、直径0.8m、長さ1.1mの刳貫の井戸枠を持つ。井戸枠の材質はクリである。掘り方を含めた井戸の直径は約2.0m、深さは検出面から約1.1mである。図10に、掘り方外側に細砂混り暗灰色粘質土層（3層）が記録されており、この土質はトレンチ北壁断面図の暗灰色粘質土層（53層）と類似する。検出面のレベルから見ても妥当であると考えられ、井戸1は53層上面から切り込んでいるとみられる。井戸周辺には径20cm以下の礫群が南西・南東方向に幅約4.1m敷かれている。井戸掘り方を掘削し井戸枠を埋設した後、掘り方とその周囲を覆う形で礫群を敷いたものと推測できる。井戸使用時の足元の補強のためであろうか。そうであれば、井戸が機能していた時期の地表面はほとんど削平されていないと考えられる。

旧流路 53層より下層で、旧流路を検出している。調査区の南東側には旧流路の肩が検出されている。旧流路は深さ約1mで粗砂礫層（60層）に達する。60層は地山の可能性がある。他に柱穴が検出されているが、図では示されていない。52層が柱穴に相当する可能性がある。

出土遺物

出土遺物はコンテナ15箱分の土器と井戸枠がある。旧流路出土遺物や暗灰色粘質土層出土遺物が多く、灰褐色土層が次ぐ。井戸関連遺物は少ない。旧流路出土遺物や暗灰色粘質土層出土遺物に大振りの個体が多いのに対して、灰褐色土層出土遺物は小破片が多い。ただし必ずしも遺物取り上げ時の注記と土層断面図上の注記は一致しているわけではなく、対応関係を推測せざるを得ない点もある。遺物の大半は奈良時代に属するものである。器種分類については奈良文化財研究所の分類に倣った²¹。

灰褐色土層出土遺物（図11 1～15）

灰褐色土層出土遺物は取り上げ時に上中下層に大別され、さらに中層は1・2、下層は1～4に細分されている。基本的に数字の大きい層の遺物が古いものが多いので、1から4は数字が大きいほど下層を示すものと考えられる。ただし、下層に行くにつれて古代の遺物が増えるものの灰褐色土層下層4でも中世の遺物が含まれることから、灰褐色土層は中世に堆積した土層と考えられる。1～3は「て」の字状口縁をもつ土師器皿である。4は小皿である。5・6は別個体の土師器碗である。これらの遺物からみて、灰褐色土層の堆積時期は11世紀末～12世紀前半を中心とする時期とみられる。7は土師器の壺で、内面に漆膜とみられる物質が付着する。9～14は土師器坏Aである。下層の遺物が巻きあげられたものと考えられる。体部に一段放射状暗文をもつ個体が多いが、12・13のように一段放射状暗文+連弧暗文の個体も認められる。宮都とその周辺の暗文土師器の見込みの螺旋状暗文は一筆書きで、螺旋状暗文の環が内向きのものが過半を占めるけれども、12では複数の螺旋状暗文が施されている。また、14は左に傾く放射状暗文をもつ。16は外面を全面ヘラ削りする碗A。17は鍋で、内面にタール状の物質が付着する。

井戸1関連出土遺物（図11 18～32）

井戸1内部からは18～23が出土している。21は土師器皿、20は大型の土師器皿Bの底部とみられる。見込みに外向きの螺旋状暗文を施す。19は土師器高坏Aの口縁端部と見られる。わずかに左に傾く放

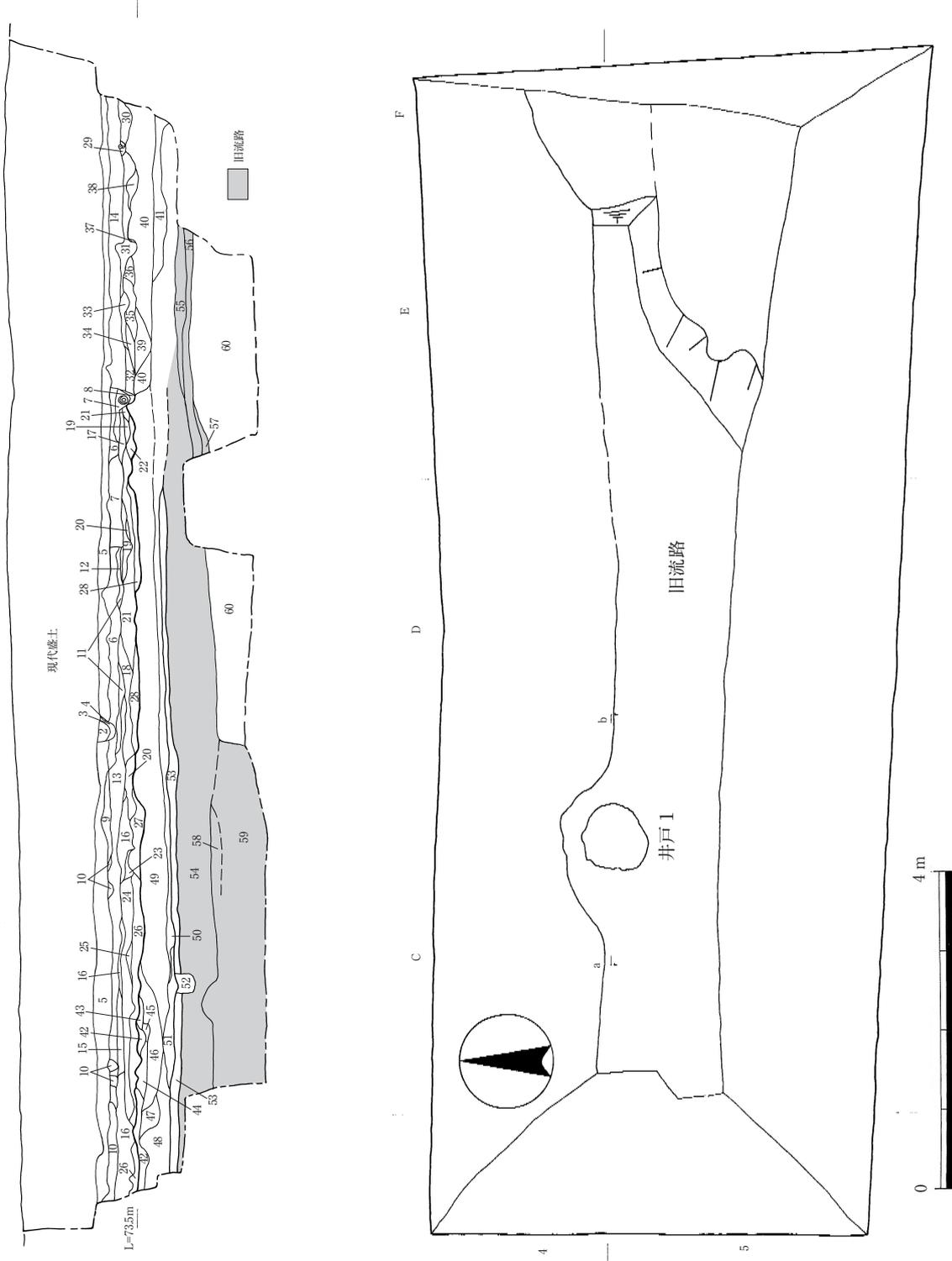


图9 調査区平面・断面図 (S=1/80)

表2 北壁断面図土層注記

層位	層位名	性格	注記
1	整地層	現代盛土	
2	濁淡灰褐色土層	床土	1 cm以下の礫を多量に含む
3	濁黄灰褐色土層	床土	マンガン粒・7 mm以下の砂礫を含む
4	淡黄灰褐色土層	床土	灰色土ブロック、3 mm前後の礫を含む
5	淡灰褐色土層	床土	3 mm前後の礫を多量に含む
6	淡黄灰色土層	床土	13層よりも灰色味が強い
7	濁黄灰褐色土層	床土	マンガン粒・土器片、1 cm以下の砂礫を多量に含む
8	注記なし	床土か	なし
9	濁淡灰褐色土層	床土か	土器片、木炭、7 mm以下の砂礫を多量に含む
10	淡茶褐色土層	床土	3 mm大の礫を多量に含む マンガン粒を含む
11	淡灰褐色土層	床土か	酸化鉄分・マンガン粒・2 cm以下の石、1 cm以下の砂礫を含む
12	濁黄褐色土層	床土か	マンガン粒・土器片・1 cm以下の砂礫を多量に含む
13	淡黄灰色土層	床土	3 mm大の礫を含む マンガン粒を含む
14	濁淡灰褐色土層		5 mm以下の砂礫を含む
15	淡灰褐色土層		3 mm大の礫を含み、5に比べ酸化鉄分が少ない ややねばりがある
16	淡灰褐色土層		3～7 mm大の礫を多量に含み、炭、酸化鉄分、土器片を含む
17	暗灰褐色土層		19層に比べ、少し淡いマンガン粒、酸化鉄分、7 mm以下の砂礫を多量に含む
18	濁灰褐色土層		2 cm以下の石、1 cm以下の砂礫、土器片、酸化鉄分を多量に含む
19	濁淡灰褐色土層		木炭、土器片、マンガン粒、1 cm以下の砂礫を多量に含む
20	濁褐色土層		2 cm以下の石、1 cm以下の砂礫、土器片、マンガン粒を含む
21	濁灰褐色土層		18層と似るが、より酸化鉄分を含む
22	暗灰褐色土層		49層より酸化鉄分、マンガン粒を多く含む
23	淡灰褐色土層		7 mm以下の砂礫を含むマンガン粒を含む
24	淡灰褐色土層		3 mm大の礫、マンガン粒を含む
25	淡灰褐色土層		24層と同一少し淡い
26	灰褐色土層		2 mm前後の礫を含むマンガン粒、16層のブロックを含む+粘質土
27	濁灰褐色土層		土器片、マンガン粒、1 cm以下の砂礫を多量に含む
28	暗灰褐色土層		酸化鉄分・マンガン粒・1 cm以下の砂礫砂粒を多量に含む
29	淡黄灰褐色砂礫層		7 mm以下の砂礫と5 cm以下の石を含む
30	黄灰色土層		主に1 cm以下の砂礫で構成され、10 cm以下の石を若干含む
31	淡茶褐色土層		32層とほとんど同じで、やや褐色が強い黄褐色ブロックが混じる
32	淡茶褐色土層		7 mm以下の砂礫とマンガン粒・土器片を含む
33	淡灰褐色土層		5 mm大の礫を多量に含み、3 mm以下の砂礫で構成される
34	淡灰褐色土層		33層と同じでやや褐色が強い
35	淡灰褐色土層		5 mm以下の砂礫で構成され、やや粘質を帯びる
36	淡灰褐色土層		3 mm以下の砂礫で構成され、土器片、マンガン粒を含む
37	淡黄灰褐色土層		1 mm以下の砂礫で構成され、マンガンを含む
38	暗灰褐色土層		5 mm以下の砂礫を含み、土器片、炭を含む
39	暗灰褐色粘質土層		40層と同じやや40層より灰色が強い
40	暗灰褐色粘質土層		3 mm以下の砂礫で構成され、土器片、5 cmの石、炭を含む
41	暗灰褐色粘質土層		40層よりやや灰色強し
42	灰褐色土層		1 mm以下の礫を多量に含む土器片を若干含む
43	灰褐色土層		5 mm前後の礫を含む土器片、炭を含むやや黄味かかる
44	灰褐色土層		1 cm以下の礫、黄褐色シルトブロックを含む
45	暗灰褐色土層		5 mm以下の礫、土器片を含む
46	灰褐色土層		7 mm以下の砂礫を含む土器片を含む
47	灰褐色土層		2 cm以下の砂礫を多量に含む土器片を含むやや粘質48層よりもやや黄味かかる
48	灰褐色土層		2 cm以下の砂礫を多量に含む土器片を含むやや粘質
49	暗灰褐色土層		土器片、マンガン粒、46層より暗色系、石、1 cmの礫を多量に含む
50	粗砂混じり淡灰褐色土層		石、粗砂多く含む
51	黄色粘質土層、淡黄灰色土層の混合層		なし
52	53層に51層が混入	柱穴埋土か	なし
53	暗灰色粘質土層	井戸切り込み面	井戸1の切り込み面か 図10 3層に対応するとみられる
54	淡青灰色混土細砂層	旧河道	井戸1断面図5層対応か
55	淡灰白色粗砂層	旧河道	なし
56	暗灰色腐植混じり粗砂層	旧河道	なし
57	腐植混じり淡青灰色粗砂層	旧河道	なし
58	混土粗砂礫層	旧河道	なし
59	淡青灰色腐植混じり細砂層	旧河道	図10 6層対応か
60	粗砂礫層	地山か	人頭大の石含まれる

表3 井戸1断面図土層注記

層位	層位名	性格	注記
1	暗灰色混土細砂土層	掘方埋土	暗灰粘、礫、暗灰色混土粗砂層の混合
2	暗灰色混土細砂土層	掘方埋土	暗灰粘、礫、暗灰色混土粗砂層の混合
3	細砂混り暗灰色粘質土	井戸のベース層53層に対応か	灰色土ブロック、3mm前後の礫を含む
4	暗灰色混土粗砂礫層	井戸のベース層	3mm前後の礫を多量に含む
5	腐植層、淡灰色細砂層の交互層	井戸のベース層54層に対応か	13層よりも灰色味が強い
6	淡灰白色小礫混り粗砂層	井戸のベース層58層に対応か	マンガン粒・土器片、1cm以下の砂礫を多量に含む
7	暗灰色弱粘質土層(砂質)	井戸埋土	4mm以下の砂礫を多量、木片、黄褐色土ブロックを含む
8	暗灰色粘質土層(砂質)	井戸埋土	4mm以下の砂礫、木炭を含む
9	暗灰色粘質土層(砂質)	井戸埋土	3mm以下の砂礫を含む
10	暗灰色土層(砂質)	井戸埋土	石、5mm以下の砂礫、木片を含む
11	暗灰色弱粘質土層(砂質)	井戸埋土	5mm以下の砂礫、木片を多量に含む
12	淡黄灰褐色砂礫層	井戸埋土	8mm以下の砂礫を含む
13	淡灰褐色粘質土層	井戸埋土	5mm以下の砂礫を含む
14	暗灰色砂礫土層	井戸埋土	
15	淡黄灰褐色砂礫層	井戸埋土	12層よりも少し暗い
16	暗灰色弱粘質土層	井戸埋土	5mm以下の砂礫を含む

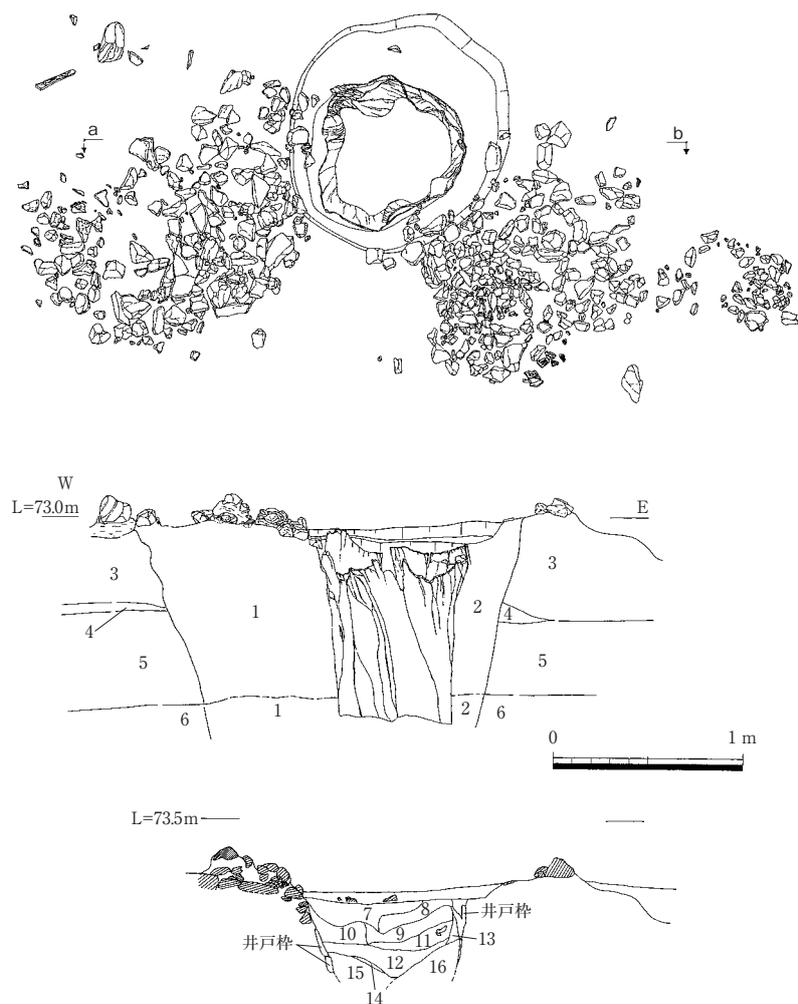


図10 井戸1平面・断面図 (S=1/40)

射状暗文をもつ。23は井戸上層出土の須恵器壺である。

26は井戸1掘り方から出土した壺Cである。その他は井戸石組みやその直下から出土した遺物である。24は摩滅で図化できなかったが、一段放射状暗文+連弧暗文をもつ坏A。25は把手付きの坏E。接合しない3片を図上で合成した。外面は横ミガキ調整され、把手が貼り付けられる。精良な胎土を用い赤褐色に焼成される。29は須恵器壺底部である。

暗灰色粘質土・暗灰褐色粘質土出土遺物 (図12, 13, 14)

33~45、67、71は暗灰褐色粘質土出土遺物、46~66、68~70は暗灰色粘質土出土である。暗灰褐色粘質土は図9で4E地区に39~41層として示されているが、遺物としては5D区で多く出土

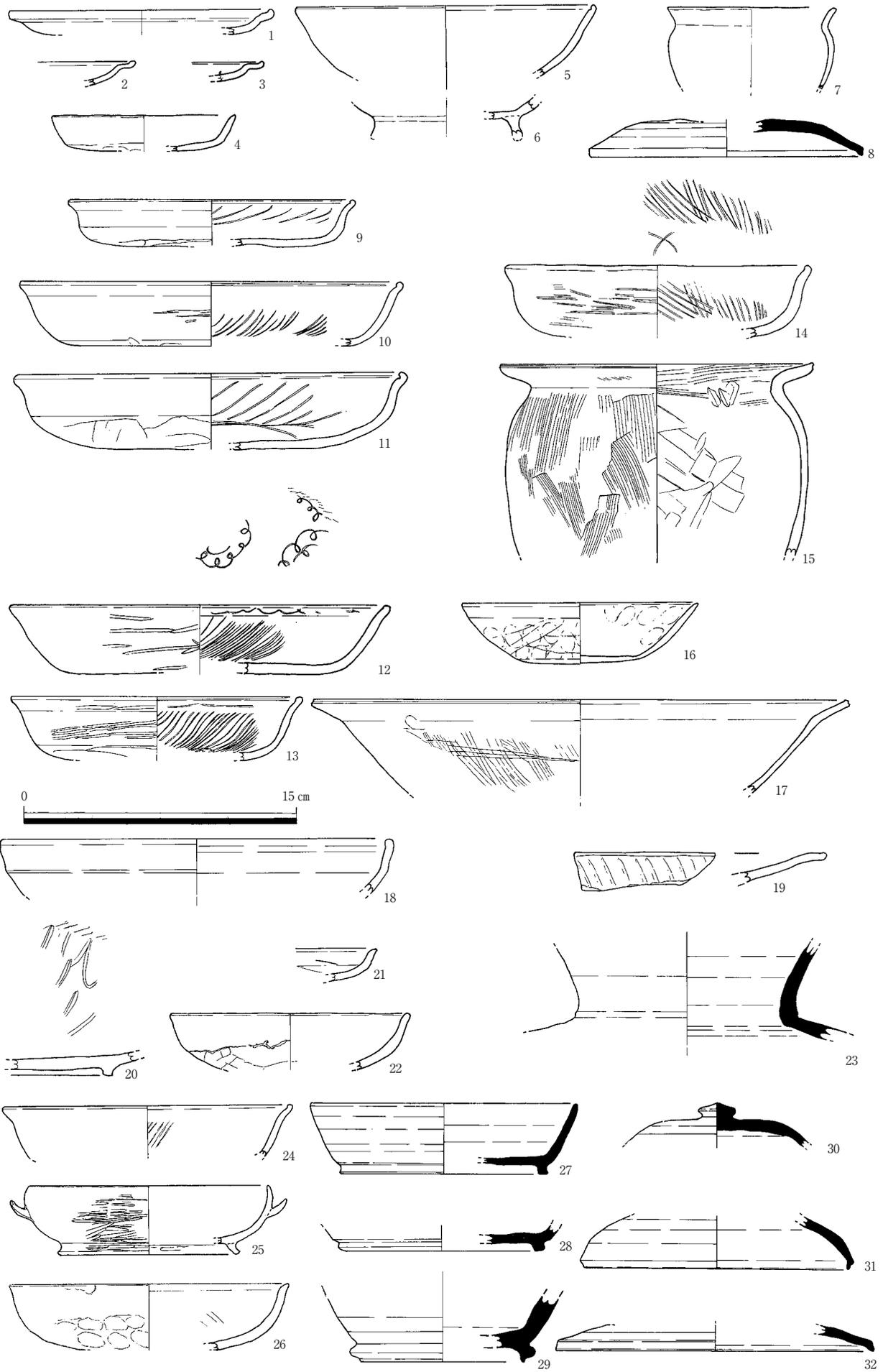


图11 出土遺物 1

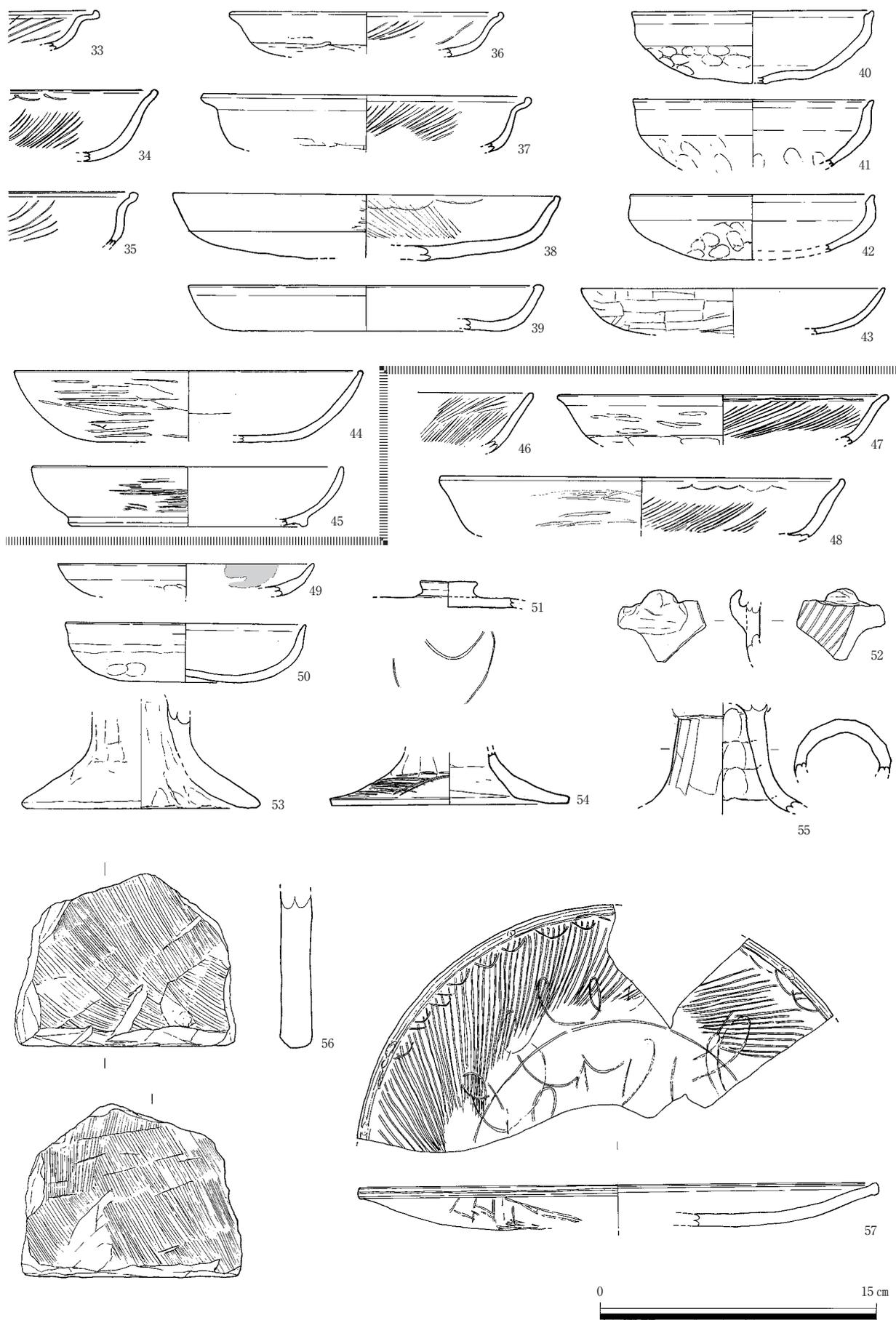


图12 出土遺物 2

している。暗灰褐色粘質土出土遺物で図示したものはすべて土師器で、極端に口縁の屈曲した坏・皿Aや外面をすべてヘラ削りする43の皿Aが含まれる。

暗灰色粘質土は井戸1が切り込む土層である。土師器坏・皿Aで体部に2段放射状暗文をもつ個体は46の1点のみで、他は図化していない個体も含め、一段放射状暗文や一段放射状暗文+連弧暗文、ないし無文の個体が認められる。

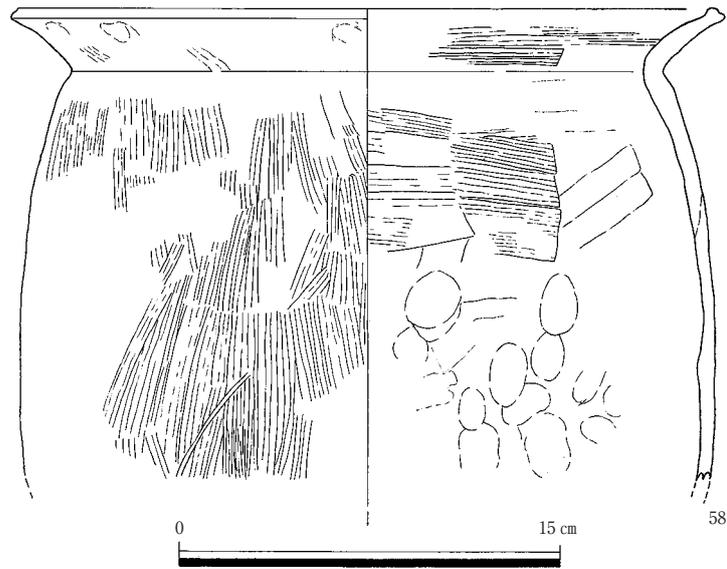


図13 出土遺物3

51は内面に暗文をもつ。52は把手

をもち、内面に放射状暗文をもつ。全体形状は不明であるが、あるいは盤のように復元できるかもしれない。53~55、57は高坏。53は胎土がやや粗放で、高坏Aではない。54は脚部心棒作りの高坏A脚部で、外面ミガキ、内面をケズリ調整しており古相を示す。55は粘土巻き上げ作りの高坏Aで、10面以上の角をもつ。56は形象埴輪片。57は高坏Aの坏部で、外向きの螺旋状暗文、放射状暗文、連弧暗文を施す。

59~66、68~71は暗灰色粘質土出土須恵器である。65・66はカエリ付きの蓋で、いずれも小片である。69・70は壺Kである。70はやや肩が丸い。内面には両方漆膜が残存しており、漆の運搬に使用されたと考えられる。特に前者は頸部と底部が意図的に打ち割られており、近辺で中身を使用した後廃棄したものと考えられる。灰褐色土層出土の漆膜付き壺7も同時期の可能性がある。69・70は全く胎土・形態が異なっており、別の産地から搬入されたものと考えられる。

灰褐色粗砂混土出土遺物・旧河道出土遺物（図15、16）

本調査では、断面図中の層位と異なる土層ラベルで取り上げられている遺物が少なくなく、灰褐色粗砂混土層もその一つである。断面図で名称が近いのは粗砂混じり淡灰褐色土層（50層）であるが、50層の土層注記は遺物に全く言及がない。また、粗砂を含む層や粗砂主体の層は旧流路にも多く、灰褐色粗砂混土層の帰属先の判断が難しい。旧流路出土といえるのは72~79、95~100、105で、80~94、101~104、106~109は灰褐色粗砂混土出土遺物である。72は放射状暗文をもつ坏Cで、79は薬壺形を呈する土師器壺Aである。灰褐色粗砂混土層からは底部外面にも暗文のある87の皿Bや、暗文の幅が広い88の坏Aなどが出土している。須恵器では鉄鉢形の鉢が3点出土しており、108の内外面に漆を塗布した個体が特筆される。

墨書土器・その他の遺物（図17、18）

110~123は墨書土器である。釈読については国立文化財機構奈良文化財研究所 史料研究室の皆様

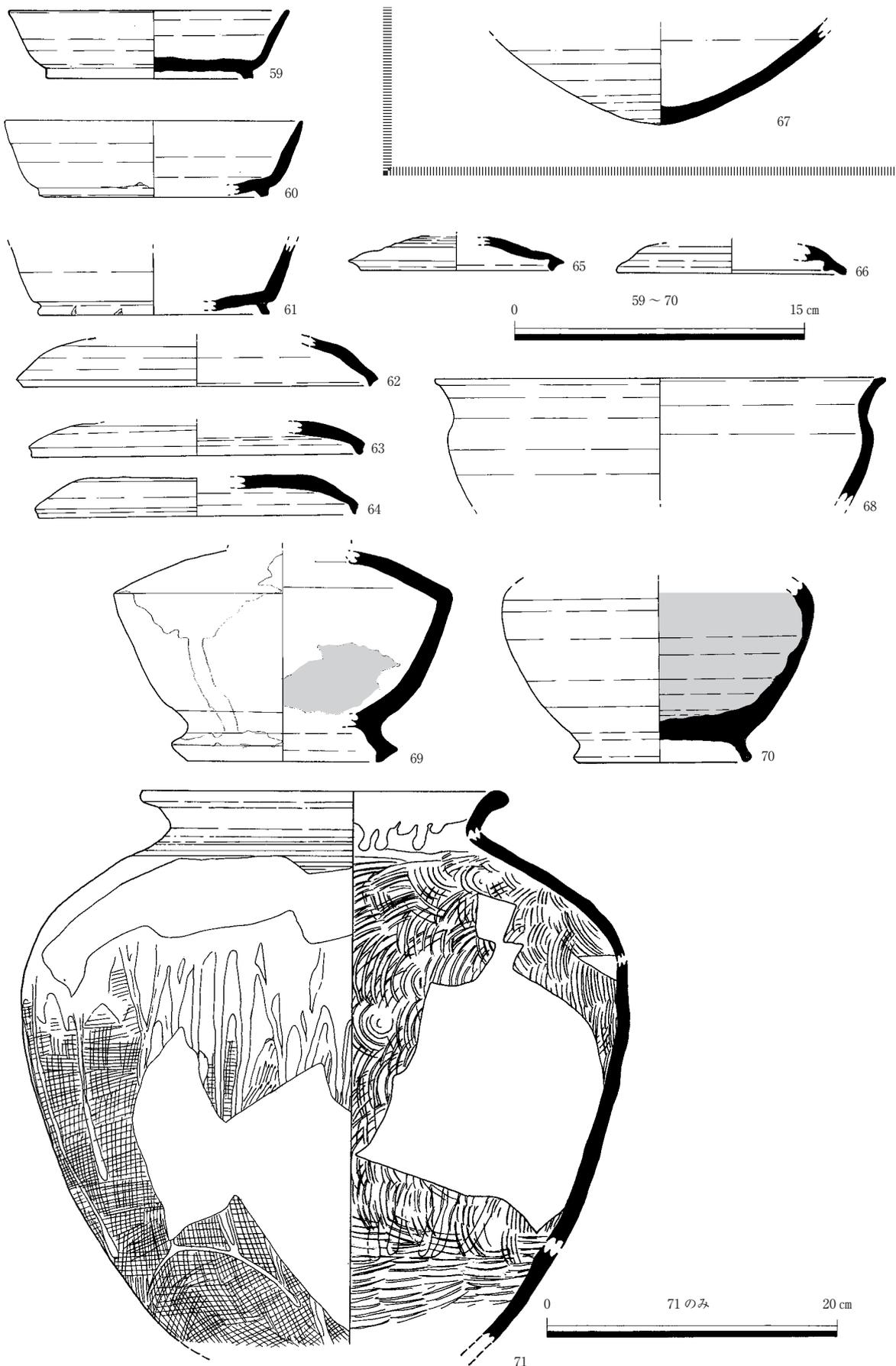


図14 出土遺物 4

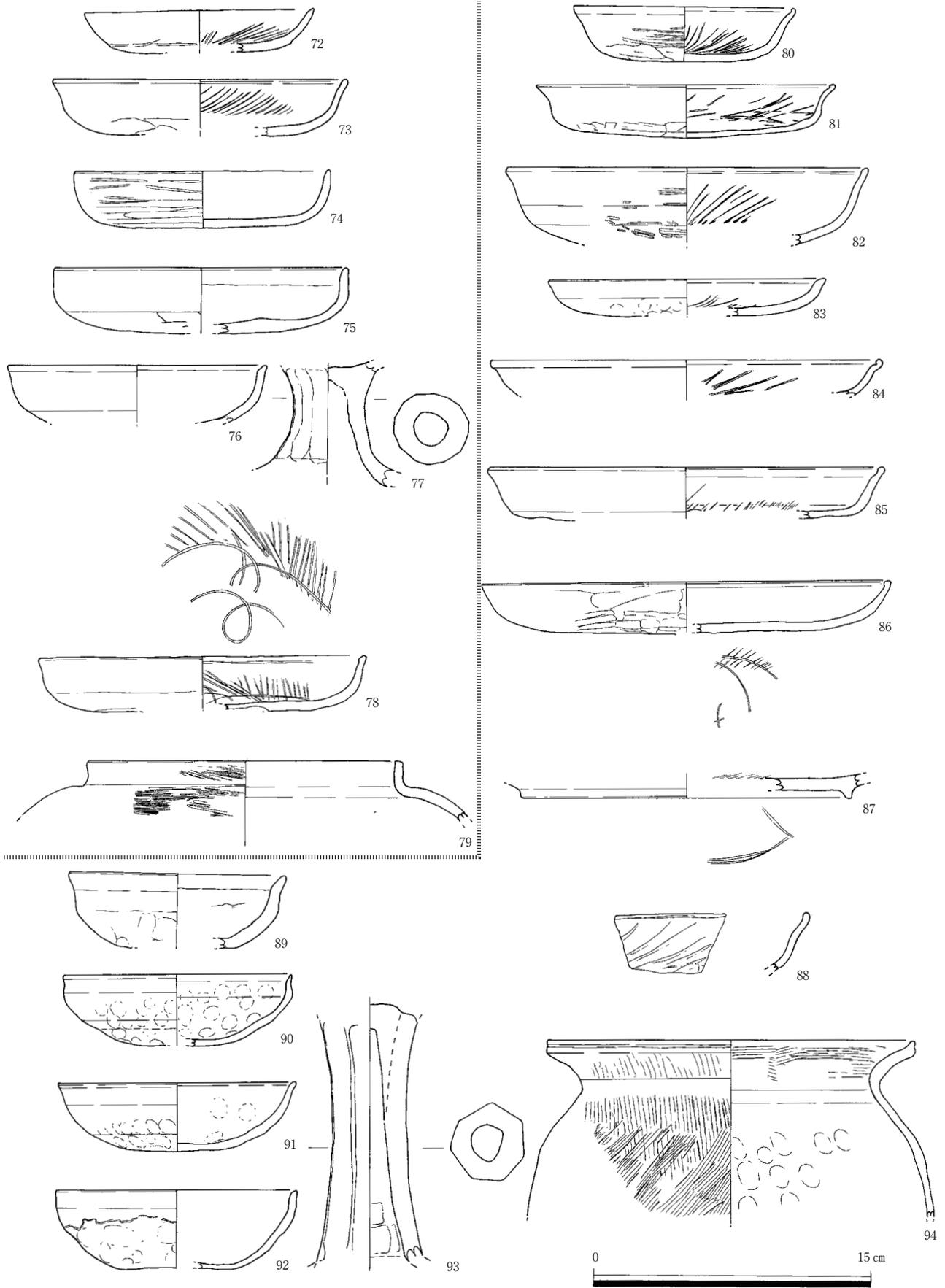


图15 出土遺物 5

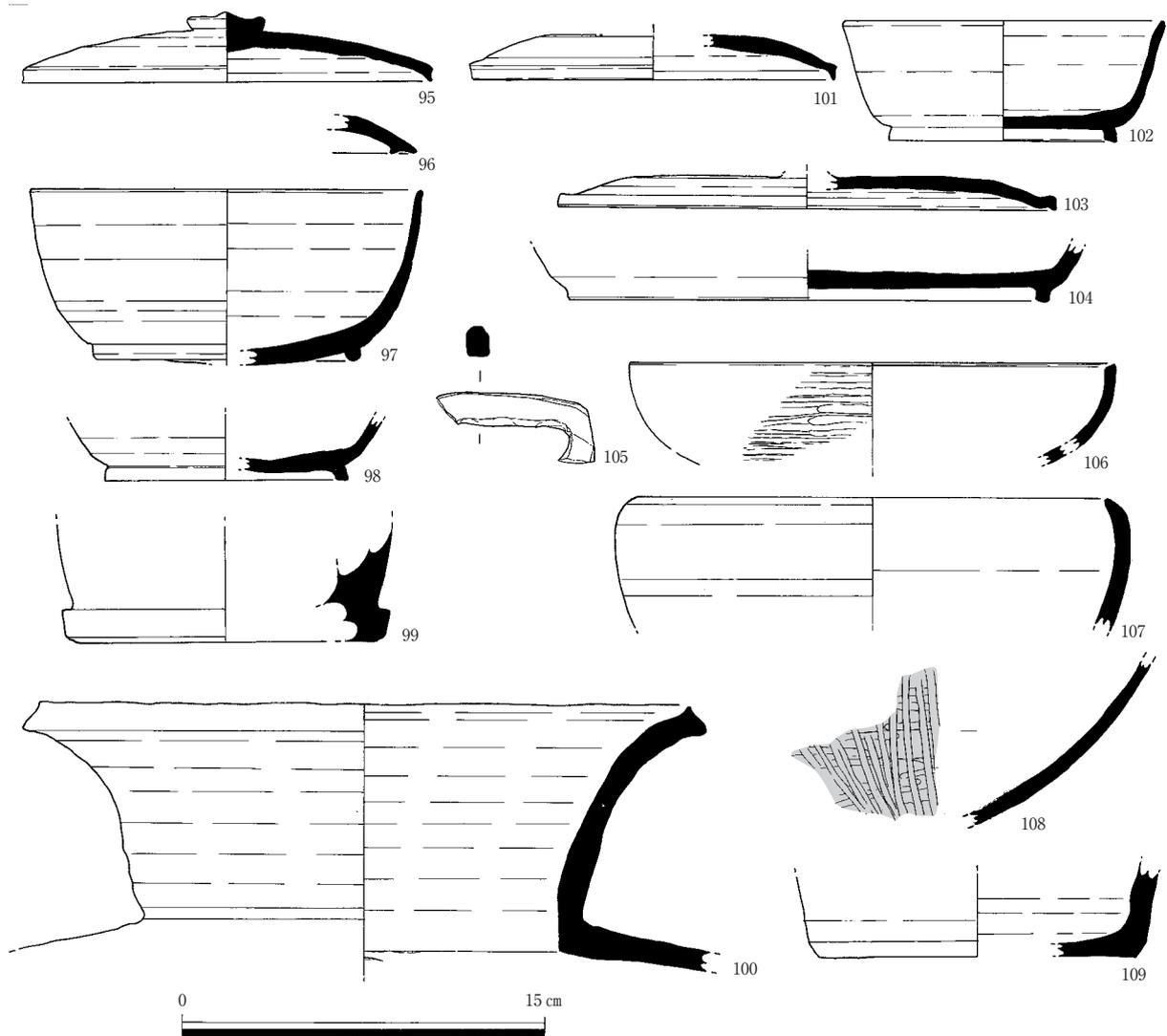


図16 出土遺物 6

ご教示を賜った。110は「宮内」。出土層位は暗灰色粗砂質土であるが、土層断面図と対応しない。「内」の「人」の部分に割れがありやや不明瞭である。112、114、116は「吉」である。「吉」は「土」部分の下の横線が長い形となる。111は記号。115は「工カ」。113は墨の痕跡が薄く残る土師器。117は「富カ」あるいは「富カ」。118は「□」。「足」の可能性もある。120は記号か。122は「田」、123は「□」。「二」の可能性もある。内面は墨痕が認められ、転用硯として用いられている。他に数点須恵器蓋の転用硯が認められる。124は土馬の脚部。125は製塩土器で、調査区全体から1875g出土しているが、細片ばかりである。暗灰色粘質土からも出土しており、井戸構築以前にも使用されたとみられる。126は刀子か。127は砥石で、2面に研磨面が認められる。1181gをはかる。128は瓦片、129～133は旧流路出土の縄文土器。

旧流路・井戸、帰属不明の層の時期

旧流路と井戸の時期については暗灰色粘質土の遺物が鍵となろう。旧流路埋没上面を暗灰色粘質土が覆い、その上面から井戸が掘り込まれているからである。

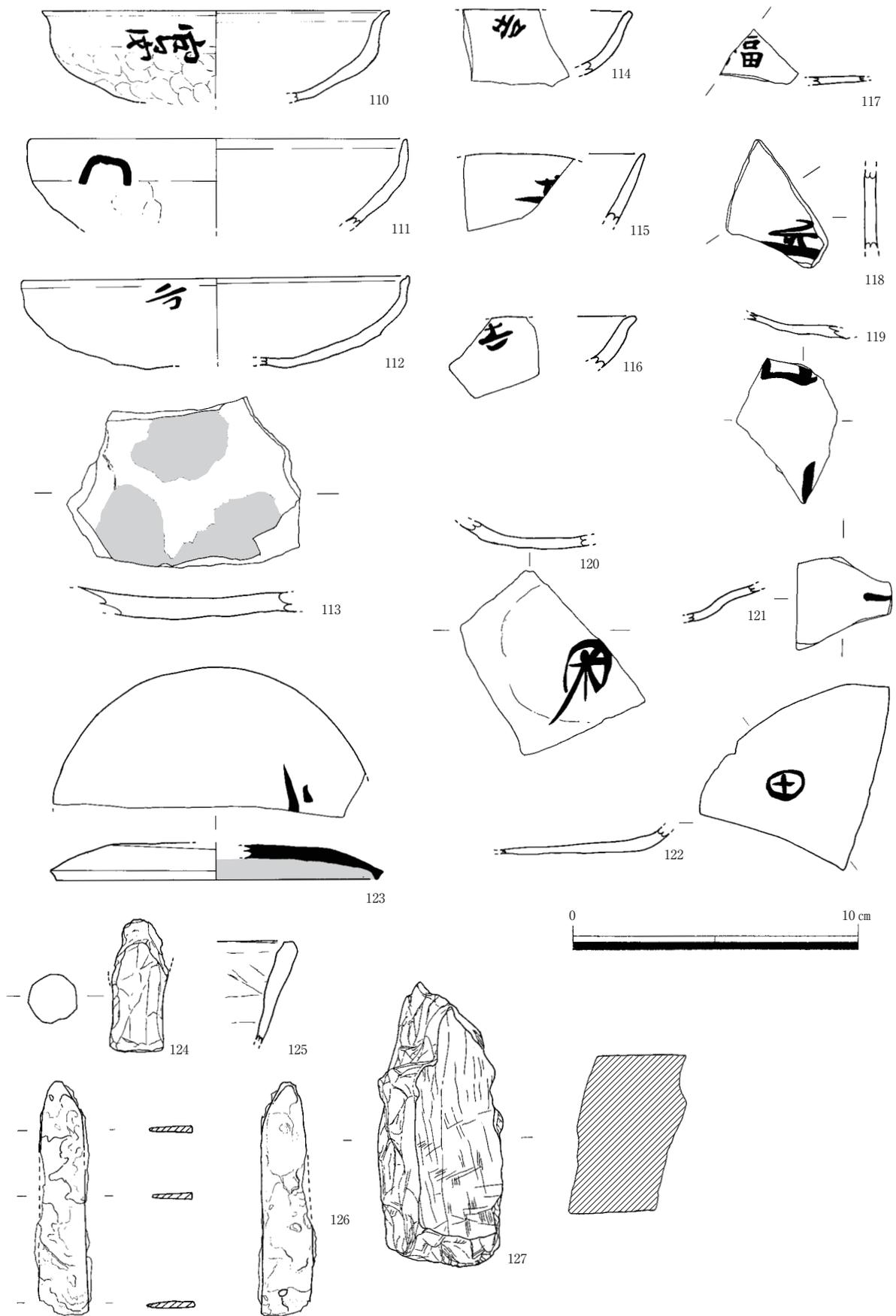


图17 出土遺物 7

暗灰色粘質土出土土師器坏Aには体部に2段放射状暗文をもつ個体があり、他に連弧暗文+放射状暗文を持つ個体、一段放射状暗文をもつ個体がある。連弧暗文+放射状暗文の組み合わせをもつ坏Aは藤原宮内濠SD2300を嚆矢とし²²、飛鳥Vに遡る可能性があるもののこの文様構成が一般化するのには平城IIである。須恵器坏・皿B蓋を見ると、口縁端部が屈曲するA形態をとるものが無く、B形態のものが占める。平城III以降にA形態が増える傾向にあり、それ以前である可能性が指摘できる。坏Bの高台もやや内側によっており、古い傾向を指摘できる。また25の類例は平城IIの長屋王邸SD4750や713年に分国した美作国府跡SK706で出土している。よって、暗灰色粘質土の時期は平城II~平城IIIとみられ、奈良時代前半と考えられる。井戸の埋没時期は不明だが、黒色土器が含まれることから奈良時代後半以降と考えられる。

灰褐色粗砂混土出土土器には、80のように奈良時代初頭までの小型の土師器坏Aも含まれるが、土師器では86、93、須恵器では103や104といった奈良時代後半から平安時代初頭にまで下る

遺物が認められ、暗灰色粘質土出土土器よりも新しく旧流路内の土層と考えることは難しい。よって灰褐色粗砂混土層は50層を指す蓋然性が高い。また、暗灰褐色粘質土出土土器も43や44のように外面を全面ヘラ削りする土師器が含まれることから、奈良時代後半~平安時代初頭に下るとみられる。

旧流路・暗灰色粘質土出土遺物からみた当地の性格について

旧流路やその上層の暗灰色粘質土から出土した遺物には、特徴的な遺物が認められる。遺物の多くはあまり摩滅しておらず、全形を復元できる個体もあるので、そう遠くない場所から運ばれてきたか、直接投棄されたとみられる。

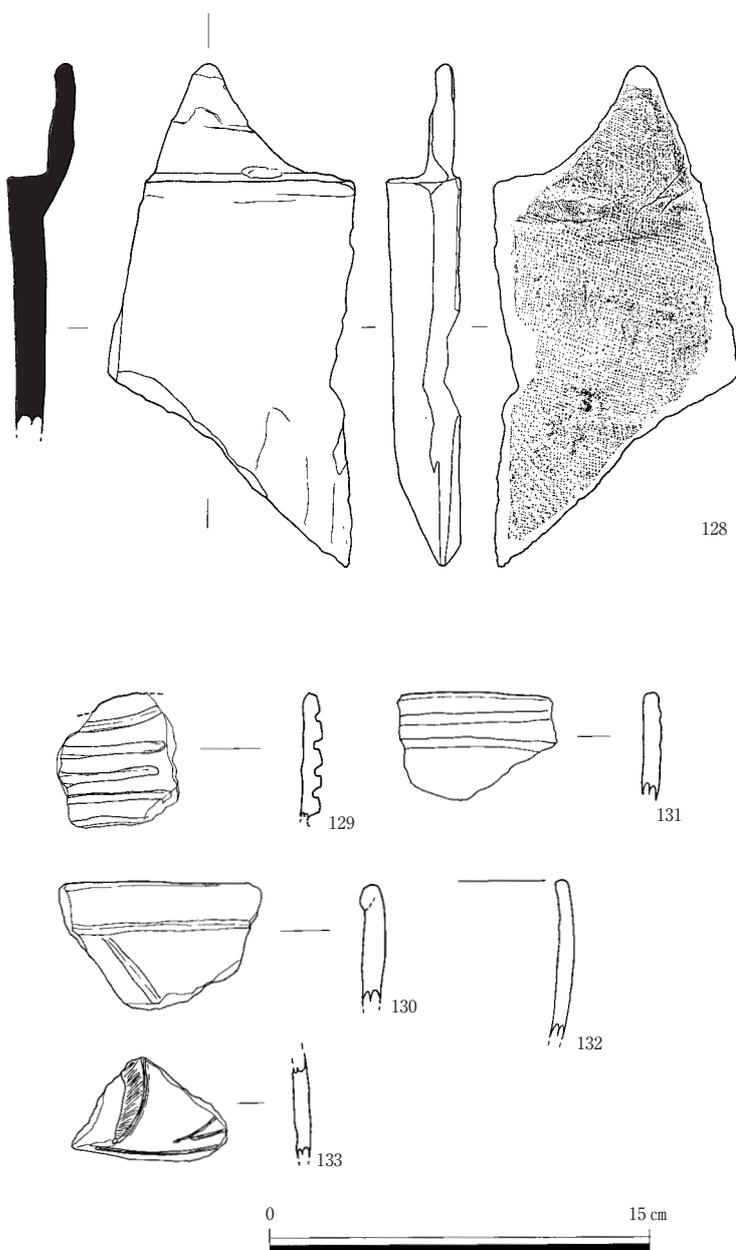


図18 出土遺物 8

まず、漆の運搬容器として用いられた須恵器壺Kが挙げられる。頸部や底部が打ち割られているので本調査地周辺で漆が使用されたことをうかがわせる。108の漆塗り須恵器鉢も調整の丁寧さから見て奈良時代前半に帰属すると考えられ、当地での製作も考えうる。またパレットとして用いられた可能性のある7も認められる。製塩土器の量も特筆できる。以上のことから、本調査地近辺には漆塗り工房や塩を用いる施設があったものと考えられる。

本調査地から出土した特殊な器種としては、土師器把手付き坏Eと漆塗り須恵器鉢Aが挙げられる。いずれも類例は少ない。把手付き坏Eは奈良市平城京跡長屋王邸や岡山県津山市美作国府、吉備池廃寺跡包含層で出土している。吉備池廃寺跡包含層の性格は不明であるが、長屋王邸や国府といった格式の高い遺跡でしか見つかっておらず、この器種が一般に使用されたとは考えにくい。また、漆塗り須恵器鉢Aはこれまでに滋賀県甲賀市信楽町鍛冶屋敷や兵庫県豊岡市但馬国分寺跡などでの出土が確認されている。前者は紫香楽宮跡に関連する遺跡であり、後者は但馬国分寺である。いずれも一般集落とはかけ離れた性格をもつ遺跡である。

墨書土器は、暗灰色粗砂質土のほか暗灰色粘質土からも出土しており、井戸構築以前から使用されていたことがわかる。「吉」や「田」といった一文字が大半で、吉祥句や記号であると考えられるが、110に「宮内」があることが注目される。「宮内」の類例は奈良県内では平城宮跡第21次SD2700、第29次SD3410、第172次調査SD2700で出土している。特に多量に出土しているのはSD2700だが、「宮内」だけでなく「宮内□」「宮内省」「宮内天長節」といった墨書土器もあり、SD2700では「宮内」が宮内省を示していることは明らかである。またSD2700出土土器も多くが奈良時代のものであって纏向例と時期も近い²³。纏向例の「宮内」が宮内省を指し示すのか、あるいは地名や人名などを示すのかは明らかでないが、類例がほぼ平城宮跡に限定されており、時期も地域も近いので本調査における「宮内」が宮内省を示しているも荒唐無稽ではないと考える。なお墨書土器は多いものの、定形硯は認められないことも注意が必要である。

これらの断片的な要素を総合すると、奈良時代前半には本調査区の近辺には漆塗り工房や製塩土器を用いる施設があり、把手付き坏Eや漆塗り鉢Aを使用する階層の高い人々が存在する可能性が指摘できる。ただし出土する硯が転用硯のみであり、定形硯を用いるような施設は現状では考えにくい。また「宮内」の墨書土器はそういった施設が宮内省に関連していた可能性も示唆するものといえよう。それらの遺物が投棄された後、本調査区には井戸が設置され使用されたとみられる。なお調査区の東約100mに上ツ道が通ることが想定されており、上ツ道に近接してそういった施設があった可能性も考慮すべきだろう。

- 1 清水眞一1992『桜井市埋蔵文化財1991年度発掘調査報告書3』（財）桜井市文化財協会
- 2 丹羽恵二2009「奈良県桜井市大福遺跡（第26・28次）の調査～奈良盆地東南部における中期から後期の集落の様相～」『近畿 弥生の会 第12回兵庫場所』
丹羽恵二2009「大福遺跡の青銅器製造関連遺物」『銅鐸—弥生時代の青銅器生産—』奈良県立橿原考古学研究所附属博物館
- 3 松宮昌樹2008「桜井公園遺跡群第6次調査概要報告」『奈良県内市町村埋蔵文化財技術担当者連絡協議会年報—平成19年度—』奈良県内市町村埋蔵文化財技術担当者連絡協議会
- 4 井上主税（編）・水野敏典・東影悠・岡田雅彦・（株）パレオラボ・奥田尚・パリノ・サーヴェイ株式会社2014『脇本遺跡Ⅱ 奈良県立橿原考古学研究所調査報告第115冊』奈良県立橿原考古学研究所
- 5 福辻淳（編）2012『風呂坊古墳群：第4次発掘調査報告書 桜井市内埋蔵文化財発掘調査報告書 2008年度 2』（財）桜井市文化財協会
- 6 寺澤薫1984『纏向遺跡と初期ヤマト政権』『橿原考古学研究所論集6』吉川弘文館
石野博信・関川尚功1976『纏向』桜井市教育委員会
- 7 安井隆浩2006「奈良県纏向遺跡の立地基盤と古地形環境」『東田大塚古墳—奈良盆地東南部における纏向型前方後円墳の調査—』（財）桜井市文化財協会
- 8 石野博信・関川尚功1976『纏向』桜井市教育委員会
- 9 橋本輝彦ほか（編）2012『史跡纏向古墳群 纏向石塚古墳発掘調査報告書』桜井市教育委員会
- 10 橋本輝彦2013『奈良県桜井市 纏向遺跡発掘調査概要報告書 —トリイノ前地区における発掘調査—』桜井市纏向学研究センター編 桜井市教育委員会
- 11 橋本輝彦（編）2007『奈良県桜井市 纏向遺跡発掘調査報告書』桜井市教育委員会
- 12 福辻淳2013「纏向遺跡の木製仮面と土坑出土資料について」『纏向学研究センター研究紀要 纏向学研究 第1号』桜井市纏向学研究センター
- 13 清水眞一1994『纏向遺跡第74・76次発掘調査報告書』桜井市教育委員会
- 14 福辻淳2004『纏向遺跡第135次発掘調査報告』『桜井市 平成15年度国庫補助による発掘調査報告書』桜井市教育委員会
- 15 橋本輝彦1995「纏向遺跡第80次発掘調査報告」『桜井市 平成6年度国庫補助による発掘調査報告書2』桜井市教育委員会
- 16 萩原儀征1987「一九八七—七 桜井市巻野内 纏向遺跡発掘調査概要」桜井市教育委員会
橋本輝彦1997「纏向遺跡第90次発掘調査報告」『桜井市 平成8年度国庫補助による発掘調査報告書』桜井市教育委員会
- 17 橋本輝彦・奥山誠義・河原一樹・六車美保・宮路淳子・中澤隆・田中康仁2013「纏向遺跡出土巾着状布製品の総合調査」『纏向学研究センター研究紀要 纏向学研究 第1号』桜井市纏向学研究センター
- 18 米川仁一2001「桜井市 箸中纏向遺跡第119次・121次調査概報 [箸中イヅカ古墳・箸中西遺跡]」『奈良県遺跡調査概報2000年度』奈良県立橿原考古学研究所
- 19 清水眞一1994『纏向遺跡第74・76次発掘調査報告書』桜井市教育委員会
- 20 石野博信・関川尚功1976『纏向』桜井市教育委員会
- 21 神野恵2005「第3章出土遺物 3-1-3 土器類」『奈良文化財研究所学報第70冊 平城宮発掘調査報告XVI—兵部省地区の調査本文編—』pp.118-119 独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所
- 22 高橋透2012「藤原宮東面内濠SD2300出土土器（1）-24次調査から」『奈良文化財研究所 研究紀要2012』
- 23 奈良文化財研究所1983『平城宮出土墨書土器集成Ⅰ』

表4 遺物観察表1

実測番号	図版番号	地区名 層位	器種	法量	調整(外面)	調整(内面)	色調	備考
1	6-1	5C-D 灰褐色土下層3	皿	口径14.4cm 器高1.4cm	体部ナデ 底部ユビオサエ	ナデ	o. 2.5Y7/2(灰黄) i. 2.5Y7/2(灰黄)	
2	6-2	灰褐色土(素掘下1) 中層2日目	皿	口径1.4cm	ナデ	ナデ	o. 2.5Y5/1(黄灰) i. 2.5Y5/1(黄灰)	
3	6-3	5D-E 灰褐色土下層4	皿	口径1.1cm	ナデ	ナデ	o. 10YR6/1(褐灰) i. 2.5Y6/2(灰黄)	
4	6-4	5E-F 灰褐色土下層3	皿	口径10.0cm 器高2.0cm	ナデ	ナデ	o. 5YR6/4(にぶい橙) i. 5YR6/4(にぶい橙)	
5	6-5	5D-E 灰褐色土下層 (素掘溝下)	壺	口径16.4cm 器高4.0cm	口縁部ナデ 体部ユビオサエ	ナデ	o. 10YR5/2(灰黄褐) i. 10YR5/2(灰黄褐)	
6	6-6	5E-F 灰褐色土下層3	壺	口径7.8cm 器高2.1cm	ナデ	ナデ	o. 10YR5/2(灰黄褐) i. 10YR4/1(褐灰)	
7	6-7	灰褐色土下層4	壺	口径9.2cm 器高4.5cm	ユビオサエ→ナデ	ナデ	o. 7.5YR6/4(にぶい橙) i. 7.5YR7/4(にぶい橙)	内面に漆か
8	6-8	5E 灰褐色土下層4	坏B蓋	口径15.0cm 器高2.1cm	回転ヘラケズリ	回転ナデ	o. N7/0(灰) i. N7/0(灰)	転用硯
9	6-9	5E-F 灰褐色土下層4	皿A	口径15.6cm 器高2.6cm	体部ナデ 底部手持ヘラケズリ	螺旋状暗文+放射状暗文	o. 7.5YR7/4(にぶい橙) i. 5YR7/4(にぶい橙)	
10	6-10	5E-F 灰褐色土下層4	坏A	口径20.9cm 器高3.6cm	体部横ミガキ 底部横ミガキ	放射状暗文	o. 10YR7/3(にぶい黄橙) i. 10YR7/3(にぶい黄橙)	
11	6-11	5E(Fより) 灰褐色土下層4	坏A	口径21.1cm 器高4.2cm	体部ナデ 底部手持ヘラケズリ	螺旋状暗文+放射状暗文	o. 5YR7/6(橙) i. 5YR7/6(橙)	
12	6-12	5E-F 排水溝3次南東岸 5E 暗褐色砂礫層	皿A	口径20.6cm 器高3.8cm	体部ミガキ 底部板ナデ	螺旋状暗文+放射状暗文 +連弧暗文	o. 7.5YR8/4(浅黄橙) i. 5YR8/4(淡橙)	見込みは輪花状 の暗文
13	6-13	5D-E 排水溝3次南岸	坏A	口径15.8cm 器高3.6cm	体部ミガキ 底部手持ヘラケズリ	螺旋状暗文+放射状暗文 +連弧暗文	o. 7.5Y7/4(にぶい橙) i. 7.5YR7/4(にぶい橙)	
14	6-14	5E(Fより) 灰褐色土下層4	坏A	口径16.5cm 器高4.0cm	体部ミガキ	螺旋状暗文+放射状暗文	o. 5YR6/6(橙) i. 5YR7/6(橙)	放射状暗文は左 上がり
15	6-15	灰褐色土下層4	甕	口径17.0cm 器高10.6cm	タテハケ	板ナデ	o. 2.5YR7/3(淡赤橙) i. 10YR7/3(にぶい黄橙)	
16	6-16	排水溝3次南岸	壺A	口径13.0cm 器高3.4cm	手持ヘラケズリ	ナデ	o. 2.5YR7/6(橙) i. 5YR7/4(にぶい橙)	
17	6-17	排水溝3次西側	鍋	口径29.4cm	口縁部板ナデ 体部タテハケ	煤のため見えず	o. 7.5YR7/4(にぶい橙) i. N3/0(暗灰)	
18	6-18	5C 井戸下層	壺	口径21.4cm 器高3.1cm	ナデ	ナデ	o. N3/0(暗灰) i. 2.5Y5/1(黄灰)	黒色土器か
19	6-19	5C 井戸下層	高坏A	器高1.7cm	-	放射状暗文	o. 5Y5/1(灰) i. 10YR5/1(褐灰)	暗文は左に傾く
20	6-20	5C 井戸下層	皿B	器高1.3cm	ナデ	連弧暗文+放射状暗文	o. 2.5Y6/1(黄灰) i. 2.5Y7/1(灰白)	口径は20cmを超 える
21	6-21	5C 井戸下層	皿	口径1.9cm	ナデ	ナデ	o. 10YR6/8(赤橙) i. 7.5YR5/2(灰褐)	
22	6-22	5C 井戸下層	壺C	口径13.0cm 器高3.1cm	体部ナデ 底部ユビオサエ	ナデ	o. 10YR6/2(灰黄褐) i. 10Y6/2(灰黄褐)	
23	6-23	5C 井戸下層	壺	-	不明	ナデ	o. N6/0(灰) i. N5/0(灰)	外面降灰
24	6-24	5C 暗灰褐色礫混土 (井戸石組のある下の層)	坏A	口径15.8cm 器高2.9cm	ナデ	放射状暗文+連弧暗文	o. 10YR7/2(にぶい黄橙) i. 10YR8/3(浅黄橙)	図化できない連 弧暗文が見える
25	7-25	5C 暗灰褐色礫混土 (井戸石組のある下の層)	坏E	口径13.2cm 器高3.8cm	ミガキ	ナデ	o. 2.5YR6/4(にぶい橙) i. 2.5YR6/6(橙)	接合しない3点か ら復元
26	6-26	5C 井戸掘形	壺C	口径15.2cm 器高3.7cm	体部ナデ 底部ユビオサエ	ナデ 底部板ナデ	o. 7.5YR7/3~7/1 i. 5YR7/4~10YR6/2	
27	7-27	5C 暗灰褐色礫混土 (井戸石組のある下の層)	坏B	口径14.5cm 器高3.9cm	体部回転ナデ 底部回転ヘラキリ	回転ナデ	o. N6/0(灰) i. N6/0(灰)	
28	7-28	5C 井戸石組遺構西	坏B	口径10.3cm 器高1.6cm	回転ナデ	回転ナデ	o. N5/0(灰) i. N6/0(灰)	
29	7-29	5D 暗灰色砂礫混土(石組み直下)	壺	口径9.0cm 器高3.6cm	回転ヘラケズリ	回転ナデ	o. N5/1(灰) i. N6/1(灰)	内面自然釉
30	6-30	5C 暗灰褐色礫混土 (井戸石組のある下の層)	坏B蓋	口径2.5cm	回転ヘラケズリ	回転ナデ	o. N6/1(褐灰) i. N6/1(褐灰)	
31	7-31	5C 暗灰褐色礫混土 (井戸石組のある下の層)	坏B蓋	口径14.4cm 器高2.5cm	回転ナデ	回転ナデ	o. N6/0(灰) i. N6/0(灰)	
32	7-32	5C 暗灰褐色礫混土 (井戸石組のある下の層)	坏B蓋	口径17.4cm 器高1.4cm	回転ナデ	回転ナデ	o. N6/0(灰) i. N6/0(灰)	
33	7-33	5D 暗灰褐色粘質土	皿A	口径2.1cm	体部ナデ 底部ケズリ	放射状暗文	o. 5YR7/4(にぶい橙) i. 2.5YR7/4(淡赤橙)	
34	7-34	5D 暗灰褐色粘質土	皿A	口径4.0cm	体部ヨコミガキ 底部ケズリ	放射状暗文+連弧暗文	o. 2.5YR7/6(橙) i. 7.5YR8/2(灰白)	
35	7-35	5D 暗灰褐色粘質土	坏Aか	口径3.0cm	体部ナデ 底部ケズリ	放射状暗文	o. 2.5Y7/1(灰白) i. 7.5YR7/6(橙)	
36	7-36	5D 暗灰褐色粘質土	坏A	口径14.7cm 器高2.5cm 底径8.8cm	体部ナデ 底部ケズリ	放射状暗文	o. 7.5YR8/4(浅黄橙) i. 7.5YR8/4(浅黄橙)	
37	7-37	5D 暗灰褐色粘質土	坏A	口径17.8cm 器高3.1cm	体部ナデ 底部ケズリ	放射状暗文	o. 7.5YR7/6(橙) i. 7.5YR8/3(浅黄橙)	
38	7-38	5D 暗灰褐色粘質土	皿A	口径21.9cm 器高3.2cm 底径-	体部ヨコミガキ	放射状+連弧暗文	o. 10YR7/3(にぶい黄橙) i. 10YR7/2(にぶい黄橙)	
39	7-39	5D 暗灰褐色粘質土	皿A	口径19.2cm 器高2.5cm	ナデ	マメツ	o. 10YR7/2(にぶい黄橙) i. 10YR8/2(灰白)	
40	8-40	5D 暗灰褐色粘質土	壺C	口径13cm 器高4.0cm	体部ナデ 底部ユビオサエ	ナデ	o. 5YR7/6(橙) 5YR7/6(にぶい橙)	
41	8-41	5D 暗灰褐色粘質土	壺C	口径13.0cm 器高3.7cm	ナデ・ユビオサエ	ナデ	o. 2.5YR6/4(にぶい橙) i. 2.5YR6/6(橙)	
42	8-42	5D 暗灰褐色粘質土	壺C	口径13.2cm 器高3.6cm	ナデ・ユビオサエ	ナデ	o. 5YR7/6(橙) i. 5YR7/6(橙)	

表5 遺物観察表2

実測番号	図版番号	地区名 層位	器種	法量	調整(外面)	調整(内面)	色調	備考
43	8-43	5 C 暗灰褐色粘質土	皿A	口径16.4cm 器高2.6cm	全面手持ヘラケズリ	ナデ	o. 10YR7/4 (にぶい黄橙) i. 10YR7/3 (にぶい黄橙)	
44	8-44	5 D 暗灰褐色粘質土	坏E	口径18.9cm 器高3.9cm	全面手持ヘラケズリ →ミガキ	ナデ	o. 7.5YR7/4 (にぶい橙) i. 7.5YR7/4 (にぶい橙)	
45	7-45	5 D 暗灰褐色粘質土	坏E	口径16.8cm 器高3.3cm 底径12.5cm	体部ミガキ 底部ナデ	ナデ	o. 5YR7/4 (にぶい橙) i. 5YR7/4 (にぶい橙)	
46	7-46	5 E 暗灰褐色粘質土	坏A	器高3.3cm	体部横ミガキ 底部手持ヘラケズリ →横ミガキ	2段放射状暗文	o. 10YR8/1 (灰白) i. 10YR8/2 (灰白)	
47	7-47	4 C 暗灰褐色粘質土	皿A	口径17.7cm 器高2.7cm	横ミガキ	放射状暗文+連弧暗文	o. 7.5YR7/3 (にぶい橙) i. 7.5YR7/3 (にぶい橙)	
48	8-48	5 E 暗灰褐色粘質土	皿A	口径21.0cm 器高3.5cm	体部マメツ 底部手持ヘラケズリ	放射状暗文+連弧暗文	o. 10rY7/2 (にぶい黄橙) i. 10rY8/2 (灰白)	見込みはマメツ
49	7-49	5 E 暗灰褐色粘質土	皿	口径14.0cm 器高1.4cm	体部ナデ 底部ユビオサエ	ナデ	o. 2.5YR6/6 (橙) i. 10YR7/1 (灰白)	燈明皿
50	8-50	5 E 暗灰褐色粘質土	碗C	口径13.0cm 器高3.2cm	体部ナデ 底部ユビオサエ	ナデ	o. 7.5YR8/6 (浅黄橙) i. 7.5YR8/4 (浅黄橙)	
51	7-51	5 E 暗灰褐色粘質土	坏B蓋	器高1.6cm	ミガキ(井桁状)	ナデ	o. 7.5YR8/2 (灰白) i. 10YR8/2 (灰白)	内面螺旋状暗文
52	7-52	5 D 暗灰褐色粘質土	盤Aか	—	ナデ	放射状暗文	o. 7.5YR8/2 (灰白) i. 7.5YR8/2 (灰白)	
53	8-53	5 D 暗灰褐色粘質土	高坏	底径12.3cm 器高—	ナデ	ナデ・ユビオサエ	o. 5YR7/4 (にぶい橙) i. 5YR6/4 (にぶい橙)	
54	8-54	4 C 暗灰褐色粘質土	高坏A	底径12.8cm	ミガキ	手持ヘラケズリ	o. 7.5YR6/4 (にぶい橙) i. 7.5YR6/4 (にぶい橙)	
55	8-55	5 E 暗灰褐色粘質土	高坏A	—	柱面部取り(9面以上) 裾部ナデ	ユビオサエ	o. 10YR8/3 (浅黄橙) i. 10YR8/2 (灰白)	
56	8-56	5 E 暗灰褐色粘質土	埴輪	—	タテハケ	タテハケ	o. 7.5YR7/4 (にぶい橙) i. 7.5YR6/4 (にぶい橙)	
57	8-57	5 E 暗灰褐色粘質土	高坏A	口径28.4cm 器高2.4cm	ミガキ	螺旋状暗文+放射状暗文 +連弧暗文	o. 7.5YR8/2 (灰白) i. 7.5YR8/2 (灰白)	
58	9-58	5 D 暗灰褐色粘質土	甕	口径27.4cm 器高18.7cm	タテハケ	ユビオサエ・ヨコハケ	o. 7.5YR8/2 (灰白) i. 10rY5/1 (褐灰)	
59	9-59	4 C 暗灰褐色粘質土	坏B	口径14.5cm 器高3.6cm	回転ナデ 底部回転ヘラキリ	回転ナデ	o. N6/0 (灰) i. N6/0 (灰)	
60	9-60	5 E 暗灰褐色粘質土	坏B	口径15.3cm 器高4.0cm	体部回転ナデ 底部回転ヘラキリ	回転ナデ	o. N6/0 (灰) i. N6/0 (灰)	
61	9-61	5 E 暗灰褐色粘質土	坏B	底径12.0cm 器高3.6cm	体部回転ナデ 底部回転ヘラキリ	回転ナデ	o. N5/0~N6/0 (灰) i. N6/0 (灰)	
62	9-62	5 E 暗灰褐色粘質土	坏B蓋	口径18.0cm	回転ヘラケズリ	回転ナデ	o. N5/0 (灰) i. N6/0 (灰)	
63	9-63	5 E 暗灰褐色粘質土	坏B蓋	口径17.0cm	回転ヘラケズリ	回転ナデ	o. N5/0 (灰) i. N6/0 (灰)	
64	9-64	5 E 暗灰褐色粘質土	坏B蓋	口径16.4cm 器高2.1cm	回転ヘラケズリ	回転ナデ	o. N5/0 (灰) i. N6/0 (灰)	
65	9-65	5 E 暗灰褐色粘質土	坏G蓋	口径11.9cm 器高1.5cm	回転ヘラケズリ	回転ナデ	o. N5/0 (灰) i. N7/0 (灰)	
66	9-66	5 E 暗灰褐色粘質土	坏G蓋	口径11.2cm 器高1.8cm	回転ヘラケズリ	回転ナデ	o. N5/0 (灰) i. N6/0 (灰)	
67	9-67	5 D 暗灰褐色粘質土	鉢A	口径19.8cm	体部回転ナデ 体部下回転ヘラケズリ	回転ナデ	o. n5/ (灰) i. 2.5Y6/1 (黄灰)	
68	9-68	5 E 暗灰褐色粘質土	鉢	口径23.3cm 器高6.8cm	回転ナデ	回転ナデ	o. 2.5Y7/1 (灰白) i. 2.5Y7/1 (灰白)	
69	10-69	4 C 暗灰褐色粗砂質土 暗灰褐色粘質土	壺K	底径8.7cm 器高9.3cm	体部回転ナデ 底部回転ヘラケズリ	回転ナデ	o. N5/0 (灰) i. N6/0 (灰)	内面に漆付着
70	10-70	5 D 暗灰褐色粘質土	壺K	底径9.9cm 器高11.0cm	体部回転ヘラケズリ	回転ナデ	o. N6/0 (灰) i. N6/0 (灰)	内面に漆付着
71	10-71	5 E 灰褐色粗砂質土 5 D 暗灰褐色粘質土	大甕	口径24.8cm 器高38.2cm	平行タタキ	当て具痕	o. N5/0 (灰) i. N5/0~N6/0 (灰)	自然釉多かかかる
72	11-72	5 D・E 淡灰褐色砂礫層	坏C	口径12.4cm 器高2.3cm	ナデ	放射状暗文	o. 2.5Y7/2 (灰黄) i. 2.5Y6/2 (灰黄)	連弧暗文は確認できない
73	11-73	5 C 淡灰褐色砂礫層	坏A	口径15.6cm	体部ナデ 底部手持ヘラケズリ	螺旋状暗文+放射状暗文	o. 7.5YR8/1 (灰白) i. 10YR8/2 (灰白)	
74	11-74	5 C 淡灰褐色砂礫層	皿E	口径13.9cm 器高3.2cm	全面ミガキ	ナデ	o. 7.5YR7/3 (にぶい黄橙) i. 10YR7/2 (にぶい黄橙)	
75	11-75	5 D-E 淡灰褐色砂礫土	皿	口径15.8cm 器高3.6cm	体部ナデ 底部ユビオサエ→手持ヘラケズリ	ナデ	o. 10YR6/3 (にぶい黄橙) i. 7.5YR7/4 (にぶい橙)	
76	11-76	5 D-E 淡灰褐色砂礫土	碗C	口径13.9cm 器高3.1cm	体部ナデ 底部ユビオサエ	ナデ	o. 2.5Y7/1 (灰白) i. 5Y7/1 (灰白)	
77	11-77	5 C 淡灰褐色砂礫層	高坏A	直径4.0cm	面取り	シボリーケズリ	o. 7.5Y7/3 (にぶい橙) i. 7.5YR6/3 (にぶい橙)	脚部14角
78	11-78	5 D 河道跡 暗灰褐色砂礫土	皿A	口径17.6cm 器高3.1cm	体部ナデ 底部ユビオサエ	放射状暗文+螺旋状暗文	o. 10YR6/3 (にぶい黄橙) i. 2.5YR8/2 (灰白)	放射状暗文が左上がり
79	11-79	5 E 土坑下層 暗灰褐色粗砂質土	壺A	口径17.0cm 器高2.9cm	横ミガキ	ナデ	o. 2.5Y7/2 (黄灰) 10YR6/2 (黄灰)	
80	11-80	5 E 灰褐色粗砂質土	坏A	口径11.8cm 器高3.0cm	体部横ミガキ 底部手持ヘラケズリ	放射状暗文+螺旋状暗文	o. 2.5Y7/2 (灰黄) i. 2.5Y7/2 (灰黄)	螺旋状暗文は内向き
81	11-81	5 E 灰褐色粗砂質土	坏A	口径16.2cm 器高2.9cm	体部ナデ 底部手持ヘラケズリ	放射状暗文	o. 5YR7/4 (にぶい橙) i. 2.5Y8/2 (灰白)	底部の暗文はマメツ
82	11-82	5 E 灰褐色粗砂質土	坏A	口径19.4cm	全面ヘラミガキ	放射状暗文	o. 10YR8/2 (灰白) i. 10YR8/2 (灰白)	
83	11-83	5 E 灰褐色粗砂質土	皿C	口径15.0cm	体部ナデ 底部ユビオサエ	ナデー放射状暗文	o. 7.5YR8/2 (灰白) i. 7.5YR8/2 (灰白)	螺旋状暗文は認められない

表6 遺物観察表3

実測番号	図版番号	地区名 層位	器種	法量	調整(外面)	調整(内面)	色調	備考
84	11-84	5 E 灰褐色粗砂混土	皿A	口径21.0cm 器高2.0cm	ナデ	放射状暗文	o. 5YR5/6(明赤褐) i. 10Y5/2(灰黄褐)	
85	11-85	5 E 灰褐色粗砂混土	皿A	口径21.2cm 器高2.8cm	体部ナデ 底部手持ヘラケズリ	ナデー放射状暗文 +螺旋状暗文	o. 5YR8/4(淡橙) i. 5YR8/4(淡橙)	
86	11-86	5 E 灰褐色粗砂混土	皿A	口径22.0cm 器高2.8cm	全面手持ヘラケズリ	ナデ	o. 10YR7/3(にぶい黄橙) i. 7. 5YR7/4(にぶい橙)	
87	11-87	5 E 灰褐色粗砂混土	皿B	底径17.8cm 器高1.3cm	底部に暗文	螺旋状暗文+放射状暗文	o. 7. 5YR7/4(にぶい橙) i. 7. 5YR7/4(にぶい橙)	
88	11-88	5 E 灰褐色粗砂混土	坏A	器高3.2cm	体部ナデ 底部手持ヘラケズリ	ナデー放射状暗文	o. 2. 5YR7/1~7/6(淡赤橙) i. 2. 5YR7/2(明赤灰)	
89	11-89	5 E 灰褐色粗砂混土	埴C	口径11.6cm 器高4.1cm	体部ナデ 底部ユピオサエ	ナデ	o. 5YR6/6(橙) i. 10YR7/3(にぶい黄橙)	
90	11-90	5 E 灰褐色粗砂混土	埴C	口径12.2cm 器高3.9cm	体部ナデ 底部ユピオサエ	ナデ	o. 7. 5YR7/3(にぶい橙) i. 7. 5YR8/2(灰白)	
91	11-91	5 E 灰褐色粗砂混土	埴C	口径13.0cm 器高3.8cm	体部ナデ 底部ユピオサエ	ナデ	o. 5YR8/8(橙) i. 5YR7/4(にぶい橙)	
92	11-92	5 E 灰褐色粗砂混土	埴C	口径13.0cm 器高4.3cm	体部ナデ 底部ユピオサエ	ナデ	o. 10YR6/2(灰白) i. 10YR8/2(灰白)	
93	11-93	5 E 灰褐色粗砂混土 5 C 暗灰色粘質土	高坏A	直径2.4cm	面取り	ナデ	o. 10YR6/2(灰黄褐) i. 10YR7/3(にぶい黄橙)	脚部7角
94	12-94	5 E 灰褐色粗砂混土	甕	口径20cm 器高9.6cm	タテハケ→ナメハケ	ナデ	o. 7. 5YR8/4(浅黄橙) i. 7. 5YR7/4(にぶい橙)	
95	12-95	5 D 暗灰色粗質土	坏B蓋	口径17.0cm 器高3.0cm	降灰のため不明	回転ナデ	o. N8/1(灰) i. 2. 5Y5/1(黄灰)	
96	12-96	5 E 淡灰色砂礫混土	坏G・A蓋	器高1.6cm	回転ヘラケズリ	回転ナデ	o. N5/0(灰) i. N4/0(灰)	
97	12-97	5 E 淡灰色砂礫混土	坏B	口径16.2cm 器高7.3cm	口縁部回転ナデ 体部~底部回転ヘラケズリ	回転ナデ	o. 10YR6/1(褐灰) i. 2. 5Y6/1(黄灰)	自然釉付着
98	12-98	5 E 淡灰色砂礫混土	坏B	底径10.1cm 器高2.2cm	体部回転ナデ 底部回転ヘラケズリ	回転ナデ	o. N6/0(灰) i. 2. 5Y5/1(黄灰)	
99	12-99	5 E 土坑下層 暗灰色粗砂混土	鉢F	底径12.2cm 器高4.7cm	ナデ	ナデ	o. N5/0(灰) i. N6/0(灰)	内面マメツ 外面自然釉
100	12-100	5 E 土坑下層 暗灰色粗砂混土	甕	口径17.0cm 器高11.1cm	頸部回転ナデ 肩部平行タタキ	頸部回転ナデ 肩部同心円状当て具痕	o. 5Y6/2(灰オリーブ) i. 2. 5Y7/3(浅黄)	
101	12-101	5 E 灰褐色粗砂混土	坏B蓋	口径15.0cm 器高2.1cm	回転ヘラケズリ	回転ナデ	o. 7. 5Y6/1(灰) i. 7. 5Y6/1(灰)	
102	12-102	5 E 灰褐色粗砂混土	坏B	口径13.0cm 器高5.0cm	体部回転ナデ 底部回転ヘラケズリ	回転ナデ	o. N4/0(灰) i. N5/0(灰)	
103	12-103	5 E 灰褐色粗砂混土	皿B蓋	口径20.6cm 器高1.5cm	回転ヘラケズリ	回転ナデ	o. N5/0(灰) i. N5/0(灰)	
104	12-104	5 E 灰褐色粗砂混土	皿B	底径19.8cm	体部回転ナデ 底部回転ヘラケズリ	回転ナデ	o. N8/0(灰白) i. N8/0(灰白)	
105	12-105	5 D 河道 暗灰色砂礫土	平瓶	—	ケズリ	—	2. 5YR5/1(黄灰)	自然釉付着
106	12-106	5 E 灰褐色粗砂混土	鉢A	口径20.2cm	回転ヘラミガキ	回転ナデ	o. 2. 5Y6/1(黄灰) i. N6/1(灰)	
107	12-107	5 E 灰褐色粗砂混土	鉢A	口径19.8cm	回転ヘラ削り	回転ナデ	o. N5/0(灰) i. 2. 5Y6/1(黄灰)	
108	14-108	5 E 灰褐色粗砂混土	鉢A	—	回転ヘラミガキ →縦方向のミガキ?	回転ナデ	o. 2. 5Y7/1(灰白) i. 2. 5Y5/1(黄灰)	内外面に漆を塗布
109	12-109	5 E 灰褐色粗砂混土	壺	底径13.0cm 器高4.0cm	回転ナデ	回転ナデ	o. N2/0(黒) i. N5/1(灰)	底部に焼成時の 藁の痕跡
110	巻頭	4 C 暗灰色粗砂質土	埴C	口径12.2cm 器高3.2cm	口縁部ナデ 体部ユピオサエ	ナデ	o. 7. 5YR7/2(明灰褐) i. 7. 5YR7/2(明灰褐)	墨書「宮内」
111	13-111	5 C 井戸下層	埴C	口径13.3cm 器高3.1cm	口縁部ナデ 体部ユピオサエ	ナデ	o. 10YR5/2(灰黄褐) i. 10YR6/2(灰黄褐)	墨書「口」記号
112	13-112	4 C 暗灰色粗砂質土	埴C	口径13.6cm 器高3.2cm	口縁部ナデ 体部ユピオサエ	ナデ	o. 7. 5YR7/2(明灰褐) i. 7. 5YR7/3(にぶい橙)	墨書「吉」
113	14-113	5 E 灰褐色粗砂混土	—	—	ナデ	螺旋状暗文	o. 7. 5Y7/4(にぶい橙) i. 7. 5YR4/1(褐灰)	外側に黒色物質 付着(墨?)
114	巻頭	5 C 暗灰色砂質土	埴Cか	器高2.4cm	ナデ	ナデ	o. 5YR7/6(にぶい黄橙) i. 7. 5YR7/3(にぶい黄橙)	墨書「吉」
115	13-115	5 C 暗灰色砂質土	坏A・B	器高2.5cm	ナデ	ナデ	o. 7. 5Y7/1(灰白) i. 7. 5Y7/1(灰白)	墨書「工カ」
116	13-116	4 C 暗灰色粘質土	埴C	—	ナデ	ナデ	o. 10YR7/3(にぶい黄橙) i. 10YR7/4(にぶい橙)	墨書「吉」
117	13-117	5 E 暗灰色粘質土	—	—	ナデ	ナデ	o. 10YR7/2(にぶい橙) i. 10YR7/2(にぶい橙)	墨書「富カ」
118	巻頭	5 C 井戸石組遺構内	—	—	ケズリ	螺旋状暗文	o. 10YR7/3(にぶい黄橙) i. 10YR7/3(にぶい黄橙)	墨書「口」足の 可能性
119	13-119	5 E 暗灰色粘質土	埴C	—	ユピオサエ	ナデ	o. 7. 5YR7/6(橙) i. 7. 5YR7/2(明灰褐)	墨書「口」
120	巻頭	排水溝3次南・東岸	埴C	—	ユピオサエ	ナデ	o. 7. 5YR6/4(にぶい橙) i. 10YR7/3(にぶい黄橙)	墨書記号
121	13-121	5 E 淡灰褐色砂礫層	埴C	—	ユピオサエ	ナデ	o. 10YR7/2(にぶい黄橙) i. 5YR7/2(明灰褐)	墨書「口」
122	巻頭	5 E 暗灰色粘質土	坏Aか	—	ユピオサエ	螺旋状暗文	o. 10YR7/2(にぶい黄橙) i. 7. 5YR6/4(にぶい橙)	墨書「田」
123	13-123	5 E 灰褐色粗砂混土	坏B蓋	口径11.2cm 器高1.3cm	回転ヘラケズリ	回転ナデ	o. 5PB5/1(青灰) i. 5PB6/1(青灰)	墨書「口」二の 可能性 転用硯
124	14-124	5 E 灰褐色粗砂混土	土馬	長さ7.0cm	ナデ		o. 10YR6/2(灰黄褐)	
125	14-125	5 E 灰褐色粗砂混土	製塩土器	—	ナデ	ナデ	o. 7. 5Y8/1(灰白) i. 7. 5Y7/1(灰白)	
126	14-126	灰褐色粗砂混土	刀子か	長さ8.3cm 幅1.9cm				
127	15-127	5 E 暗灰色粘質土	砥石	長さ15.1cm 1181g				

表7 遺物観察表4

実測番号	図版番号	地区名 層位	器種	法量	調整(外面)	調整(内面)	色調	備考
128	15-128	5 E 灰褐色粗砂混凝土層	瓦	長さ19.8cm 221g	ナデ	布目痕	N8/0(灰白)	
129	15-129	5 C 河道跡淡灰色砂礫混土	深鉢	-	マメツ	ナデ	o. 10rY6/2(灰黄褐) i. 10YR6/3(にぶい黄橙)	
130	15-130	5 E (河道最下層) 淡灰褐色砂礫層	深鉢	-	ナデ	ミガキ	o. 10rY6/2(灰黄褐) i. 10YR6/2(灰黄褐)	
131	15-131	5 E (河道最下層) 淡灰褐色砂礫層	深鉢	-	ミガキ	ミガキ	o. 10YR4/1(褐灰) i. 10YR5/2(灰黄褐)	
132	15-132	5 E (河道最下層) 淡灰褐色砂礫層	深鉢	-	ミガキ	ナデ	o. N4/0(灰) i. N3/0(暗灰)	
133	15-133	5 C 河道跡淡灰色砂礫混土	-	-	ミガキ	ケズリ	o. 7.5YR5/2(灰褐) i. 10YR5/2(灰黄褐)	

第3章 分析 纏向遺跡第72次井戸枿材の樹種同定

奈良教育大学 金原正明

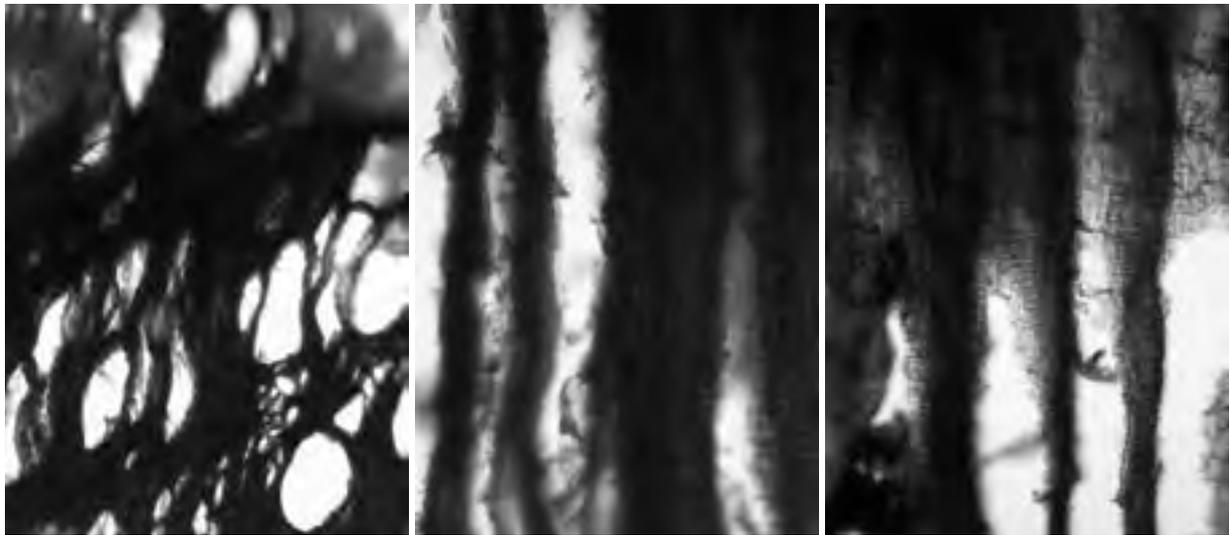
試料と方法について

纏向遺跡第72次井戸枿材の樹種同定を行った。試料となった井戸枿は刳貫きであり、乾燥保存された状態であった。そこより破片を採取し、剃刀で横断面（木口と同義）、放射断面（柁目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本三断面の切片をつくり、生物顕微鏡によって40～400倍で観察した。当初木材片をアルコールに浸透し水に戻して切片採取を行い、顕微鏡下で観察したが、構造が見えない不透明さがあり、保存処理剤および取り上げ時のウレタン樹脂が浸透し乾燥した状態が判明した。このことから木材片を塩酸で一昼夜処理してから切片採取を行い、同定を行った。

結果

試料は著しく乾燥による変形と劣化を受けていた。年輪のはじめに大型の道管が、数列配列する環孔材である。早材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少し、道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は単列の平伏細胞からなる同性放射組織型であった。

以上から、クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc.（ブナ科）と同定された。クリは日本全国に分布し、落葉高木で、通常高さ20m、大木径1mになる。耐朽性強く、水湿によく耐え、保存性の極めて高い材で井戸枿には適する。各時代分布し、利用できる樹種であったとみなされる。



横断面（×100）

放射断面（×100）

接線断面（×100）

写真1 井戸1枿材顕微鏡写真

参考文献

- 佐伯浩・原田浩（1985）広葉樹材の細胞。木材の構造，文永堂出版，p.49-100。
島地謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧，雄山閣，p.296。



掘削状況1（北東から）



掘削状況2（東から）



土層堆積状況（南から）

図版2 纏向遺跡第63次調査



調査地の位置（北東から）



落ち込み2 断ち割り（南から）



礫群検出状況（東から）



落ち込み1（北から）



調査区全景（南から）



井戸検出状況(西から)



礫群検出状況(南から)



井戸断ち割り状況(南から)



完掘状況(西から)



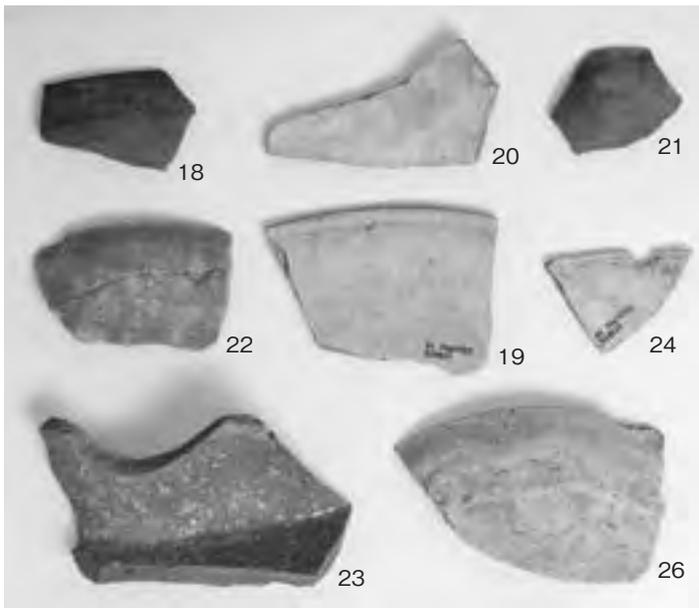
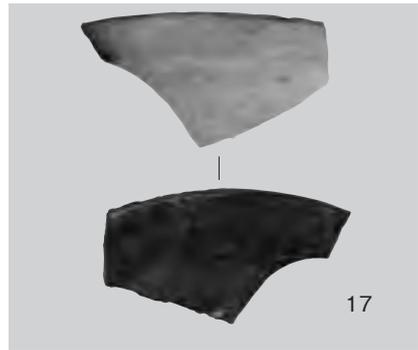
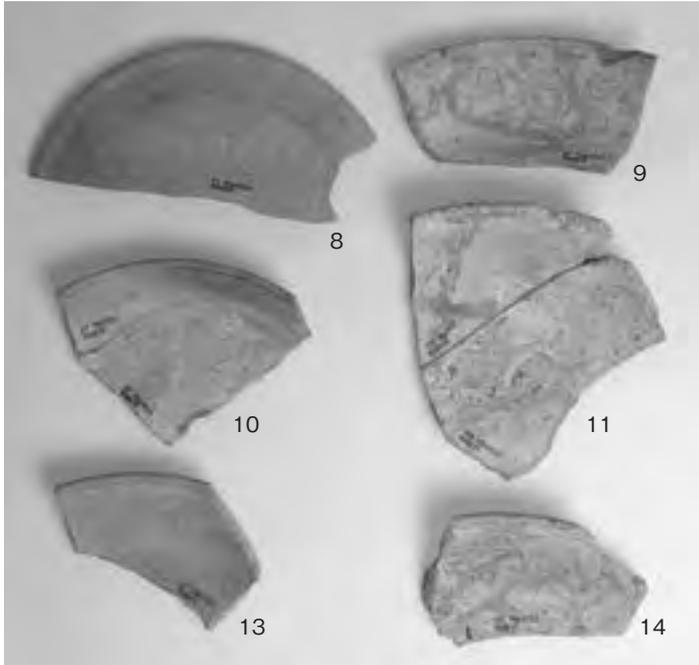
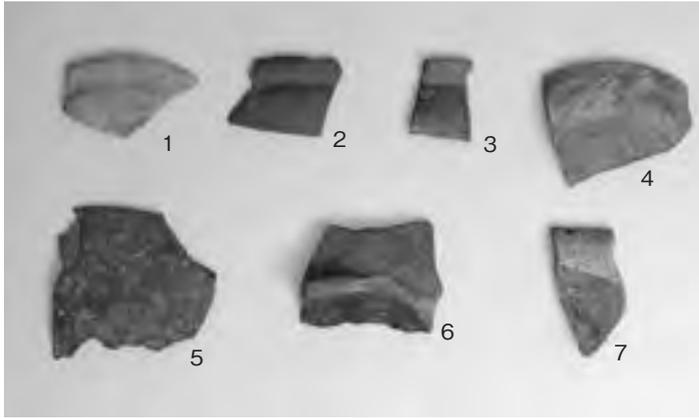
刀子検出状況



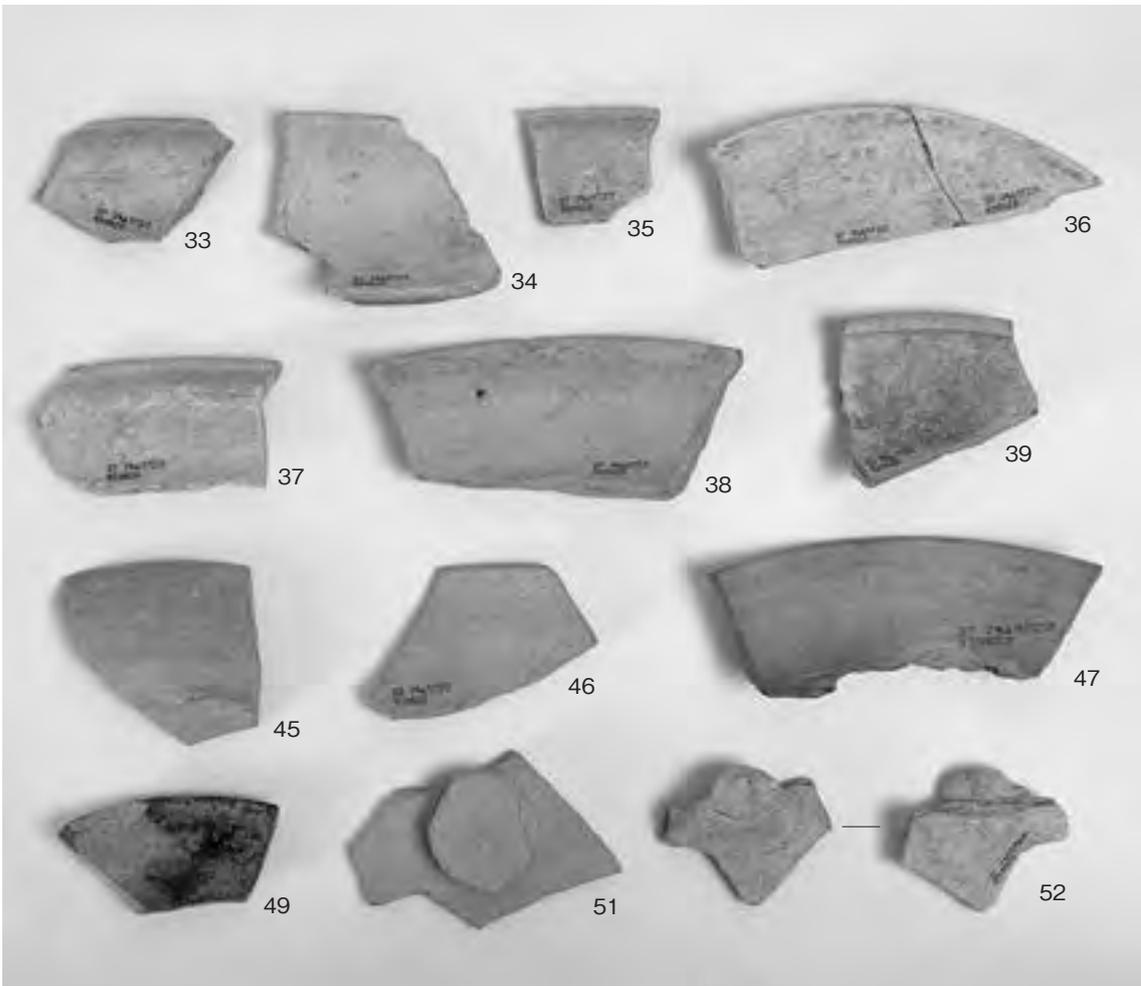
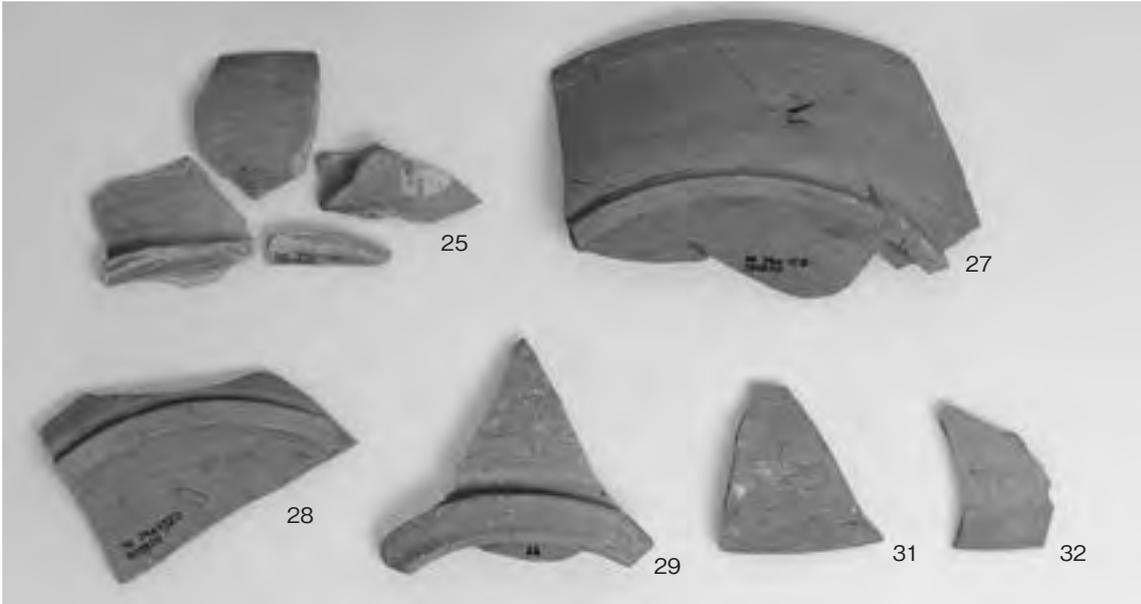
柱穴1 検出状況 (南から)



埋め戻し後 (東から)



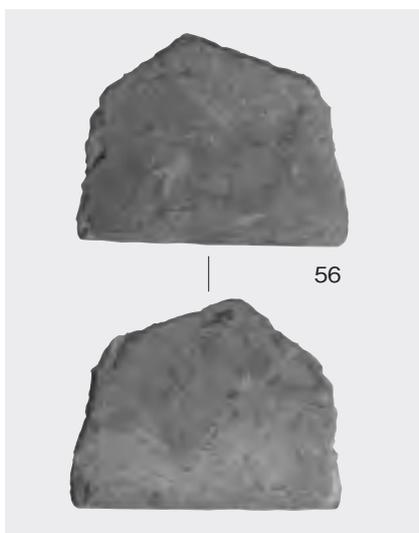
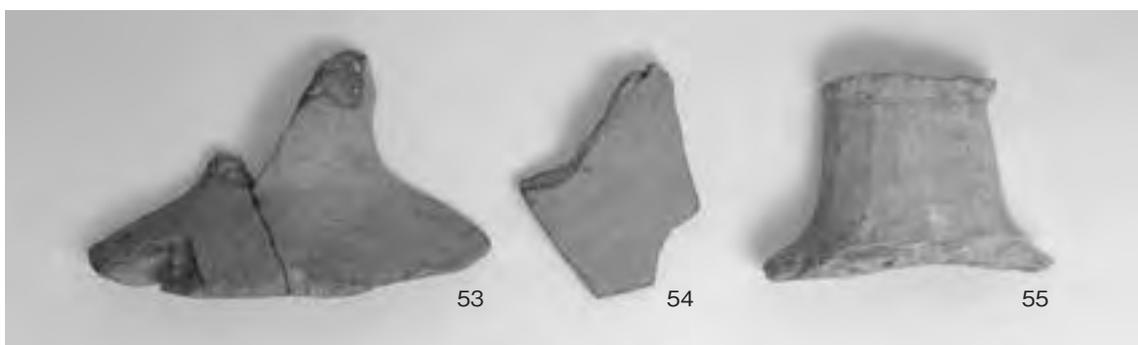
1~15 灰褐色土
 16・17 層位不明
 18~24・26・30 井戸関連
 12 暗褐色砂礫



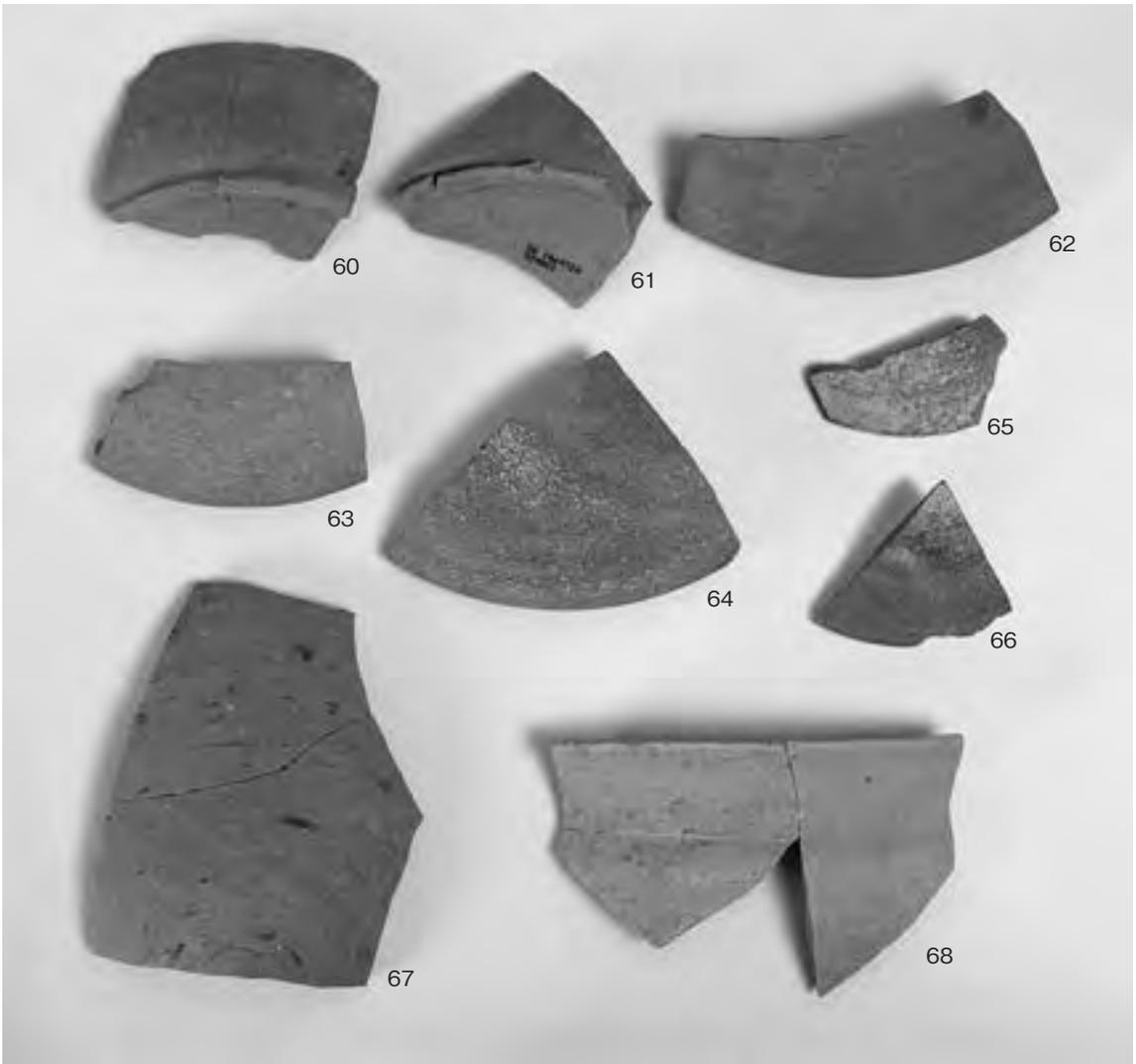
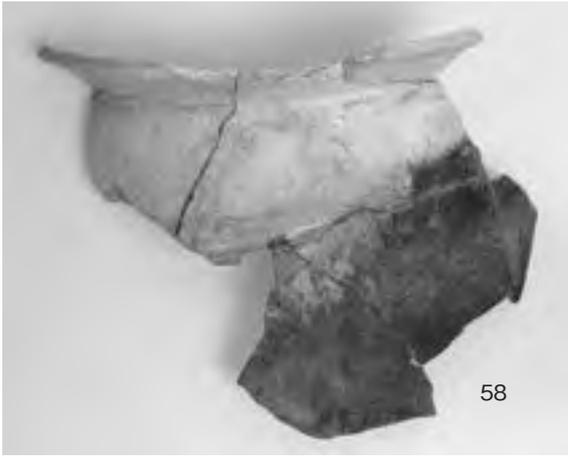
25・27～32 井戸関連
33～39・45 暗灰褐色粘質土
46・47・49・51・52 暗灰色粘質土

出土遺物(2)

図版8 纏向遺跡第72次調査(6)

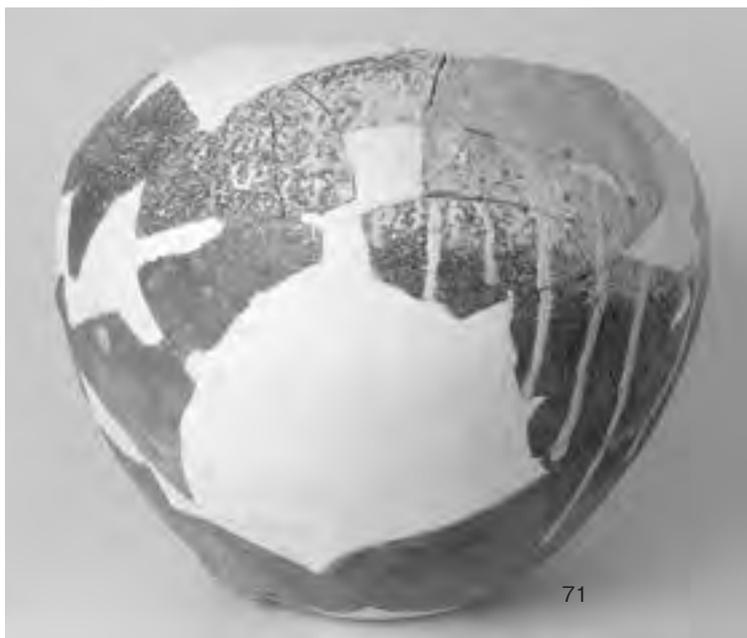
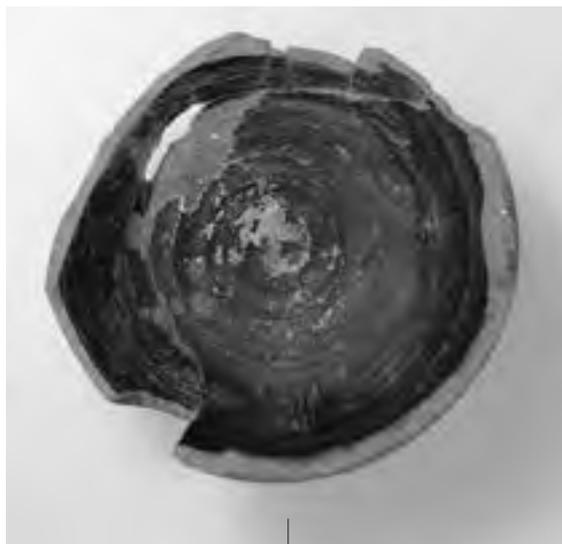


40~44 暗灰褐色粘質土
48・50・53~57 暗灰色粘質土

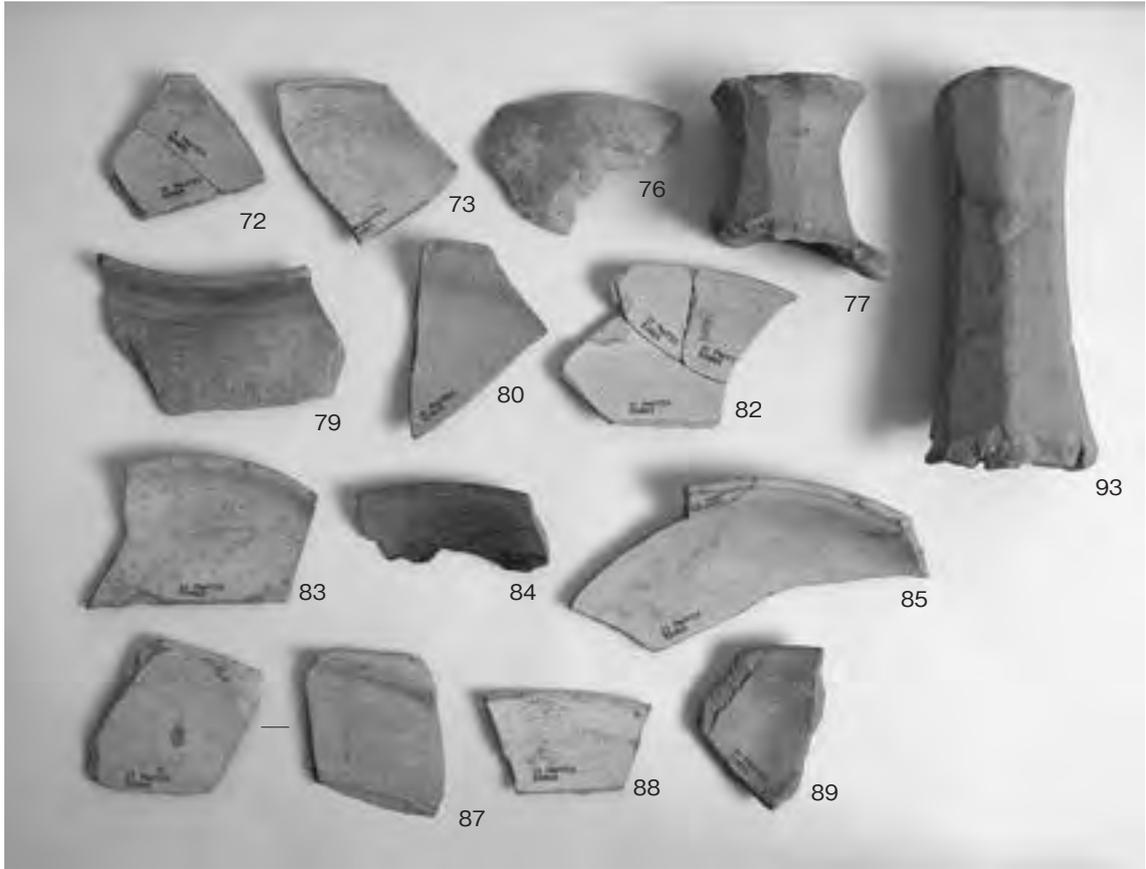


58～66・68 暗灰色粘質土
67 暗灰褐色粘質土

出土遺物(4)

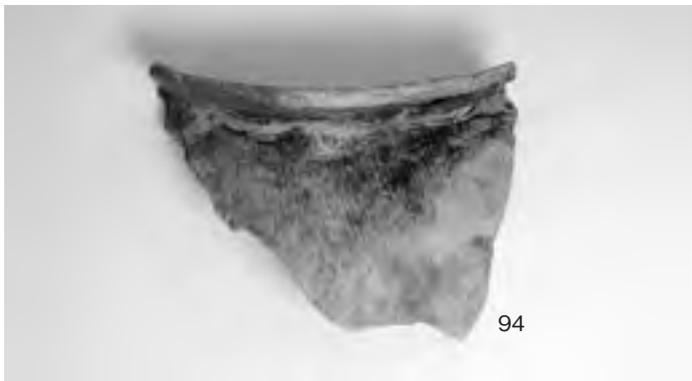
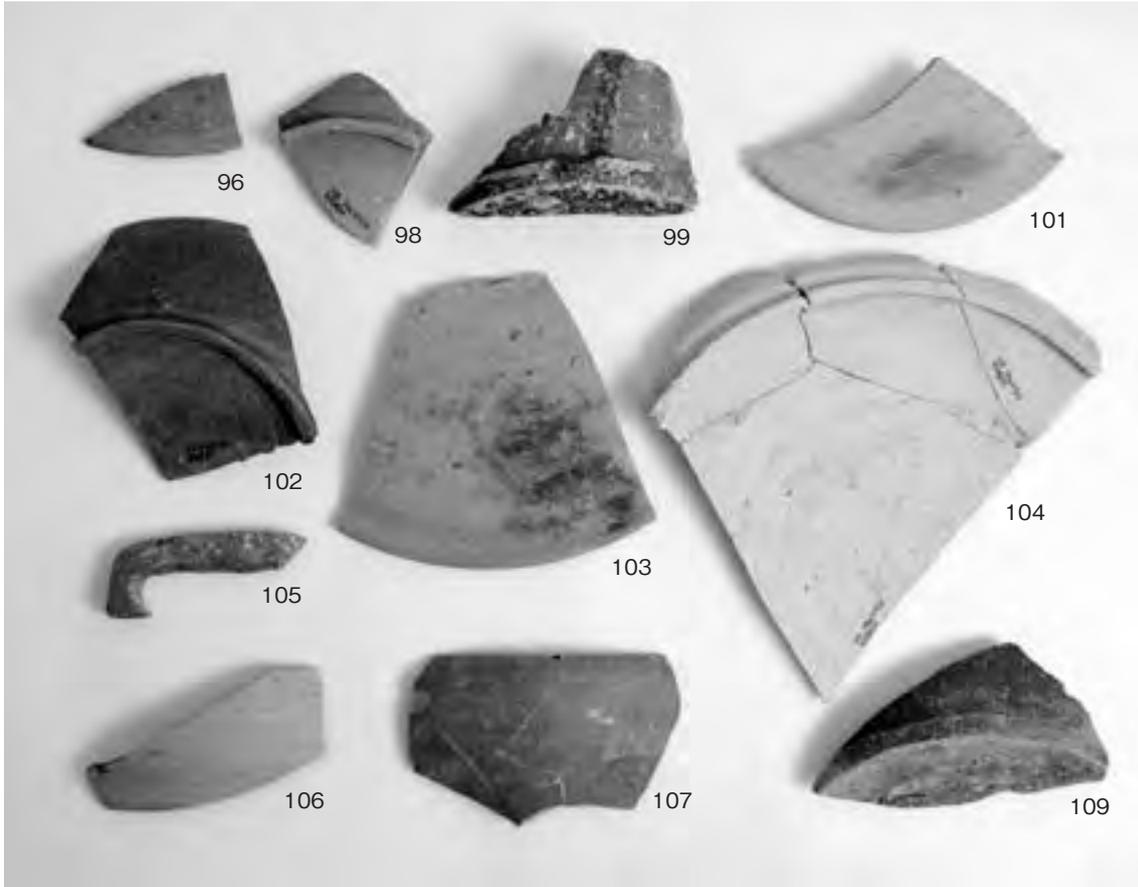


69・70 暗灰色粘質土
71 暗灰褐色粘質土
出土遺物(5)



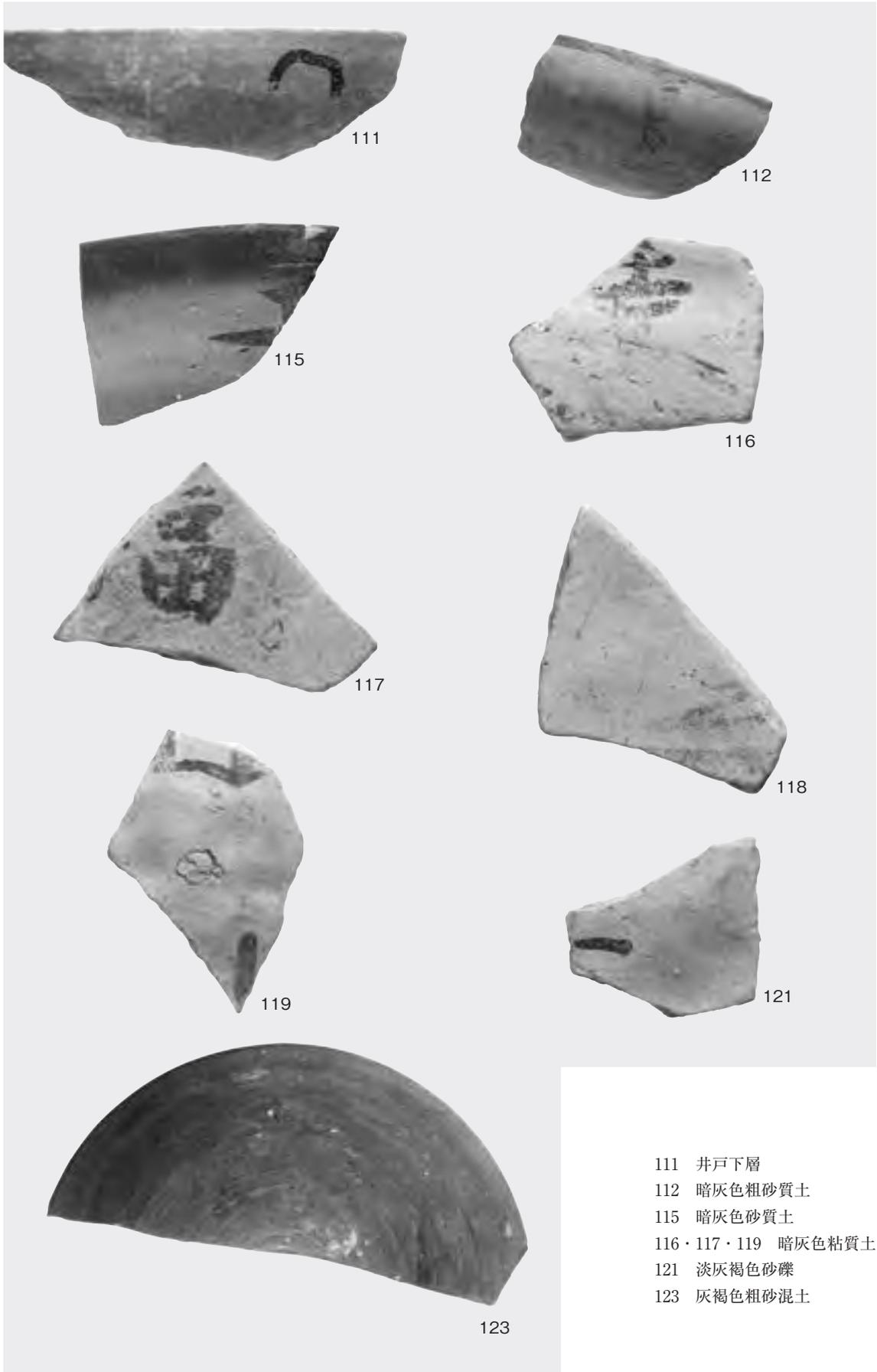
72~79 旧流路
80~93 灰褐色粗砂混土

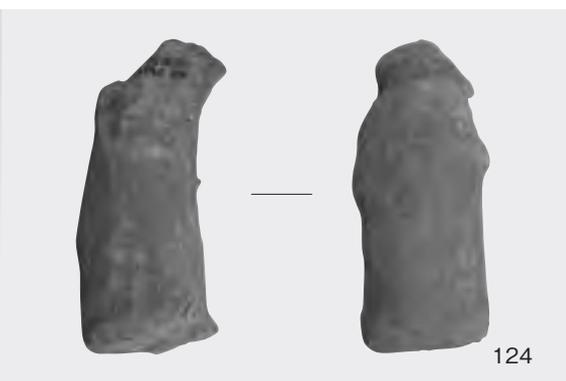
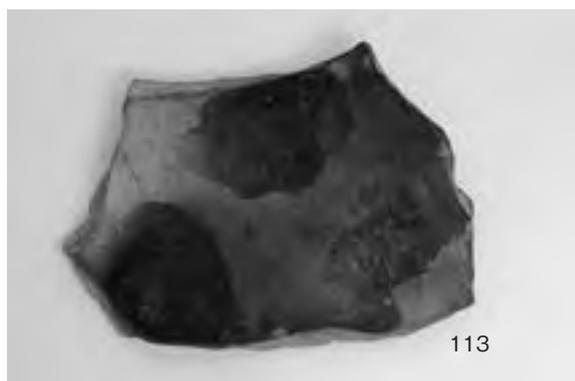
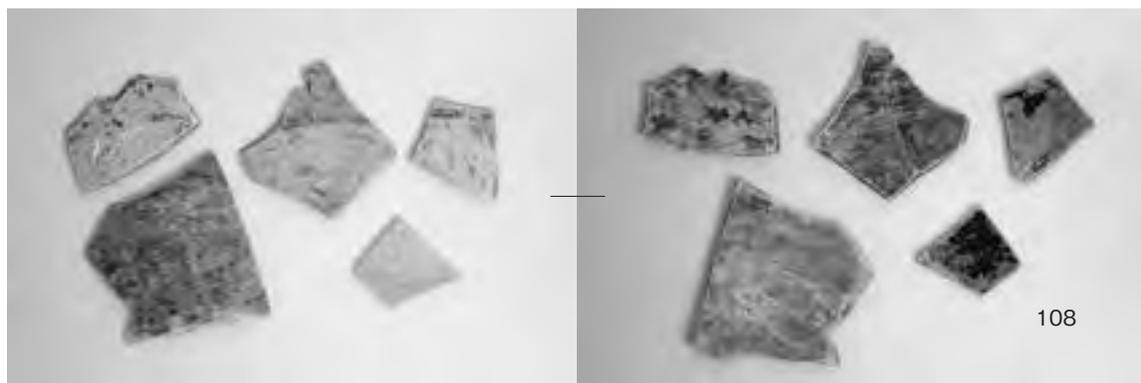
出土遺物(6)



94・101～104・106・107・109
 灰褐色粗砂混土
 95～100・105 旧流路

出土遺物(7)





108・113・124～126・128 灰褐色粗砂混土
127 暗灰色粘質土



129~133 旧流路
出土遺物(10)

報告書抄録

ふりがな	まきむくいせきはくつちょうさほうこく
書名	纏向遺跡発掘調査報告書 3
副書名	第35次・63次・72次調査
巻次	
シリーズ名	桜井市埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	第44集
編著者名	森暢郎（編集） 金原正明
編集機関	桜井市纏向学研究センター
所在地	〒633-0085 奈良県桜井市東田339番地 TEL/FAX 0744-45-0590
発行機関	桜井市教育委員会
発行年月日	平成27（2015）年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
纏向遺跡 第35次	桜井市辻61番2	292061	11-D-487	34度32分 49秒	135度50分 27秒	1982.07.29	50㎡	個人住宅
纏向遺跡 第63次	桜井市 箸中657番			34度32分 26秒	135度50分 40秒	1991.11.14 ~1991.12.04	165㎡	
纏向遺跡 第72次	桜井市 草川125番			34度32分 49秒	135度50分 26秒	1993.08.06 ~1993.09.10	93.75㎡	

所収遺跡名	種別	主な遺構	主な遺物	特記事項
纏向遺跡 第35次	集落		須恵器、土師器	
纏向遺跡 第63次		石敷遺構、落ち込み		
纏向遺跡 第72次		井戸、柱穴、旧流路	土師器、須恵器、鉄器、 製塩土器、瓦、縄文土器	「宮内」墨書土器

桜井市埋蔵文化財発掘調査報告書 第44集

奈良県桜井市

纏向遺跡発掘調査書 3

—— 第35次・63次・72次調査 ——

編 集 桜井市纏向学研究センター

〒633-0085 奈良県桜井市東田339番地

TEL/FAX 0744-45-0590

発 行 桜 井 市 教 育 委 員 会

年月日 平成27（2015）年3月31日

印 刷 株 式 会 社 明 新 社

〒630-8141 奈良市南京終町3-464